

大町市学校部活動地域展開推進計画



策定 令和7年4月

大町市教育委員会

はじめに

かつて学校部活動は、スポーツや文化芸術活動に興味・関心のある同好の中学生が、自主的・自発的に参加し、各部活動の責任者(部活動顧問)の指導の下、学校教育の一環として行われ、本市のスポーツ・文化芸術振興の一翼を担ってきました。

また、体力や技術の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で、中学生同士や中学生と教員等との好ましい人間関係の構築を図り、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、学校という環境における中学生の自主的で多様な学びの場として、教育的意義を有してきました。

しかしながら、少子化が進展する中、学校部活動を従来と同様の体制で運営することは難しくなっており、学校や地域によっては存続が厳しい状況にあります。また、専門性や意思に関わらず教員が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、学校の働き方改革が進む中、より一層厳しくなっています。

こうした状況の中、スポーツ庁及び文化庁においては、学校部活動の段階的な地域移行に関する検討を進め、令和4年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を策定し、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応等を示しました。このガイドラインでは、中学生の豊かなスポーツ・文化芸術活動を実現するためには、学校と地域との連携・協働により、学校部活動の在り方に関し速やかに改革に取り組み、中学生や保護者の負担に十分配慮しつつ、持続可能な活動環境を整備することが求められています。

また、長野県教育委員会では、令和6年3月に「長野県中学生期のスポーツ・文化芸術活動指針」及び「長野県地域クラブ活動推進ガイドライン」を策定し、令和8年度末を目途に、休日の学校部活動の地域クラブ活動への移行完了を目指すとしています。

本市においても、平成29年度から学校部活動の在り方について検討を重ねてきましたが、思うような結果は得られておりません。このような中、国のガイドラインの策定を受け、令和6年12月に「大田市学校部活動地域展開推進協議会設立準備委員会」を設置し、部活動の地域展開に向けて、再度、検討を開始しました。

部活動地域展開に関する、国・県の方針を踏まえ、当市の実情に即した、部活動の地域展開を推進するための具体的施策を示すため、本計画を策定することとしました。

学校部活動を取り巻く環境の変化に対応し、将来にわたり中学生がスポーツ・文化芸術活動等に継続して親しみ、楽しむことができる機会を確保していきます。

目 次

1 計画の位置づけ	1
2 計画の期間	1
3 大町市の現状	1
(1)少子化の状況	
(2)部活動の現状	
(3)アンケート調査から見える状況	
4 計画の目標	4
(1)基本目標	
(2)基本方針	
5 移行スケジュール	7
6 計画の推進体制	8
(1)大町市学校部活動地域展開推進協議会	
(2)計画の見直し	
(3)情報の発信	

資料編

- 大町市部活動地域展開推進協議会委員名簿
- 協議実績
- 地域クラブ移行に関するアンケート結果

1 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ庁・文化庁の「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン」及び長野県の「長野県地域クラブ活動推進ガイドライン」において求められる「市推進計画」として策定するものです。

2 計画の期間

本計画の期間は、令和7年を初年度とし、地域展開が完了するまでとします。

3 大町市の現状

(1)少子化の状況

令和 6 年度の生徒数は 527人で、5年前と比べ人数で 109 人、率で17.1% 減少しています。

【大町市立中学生数(各年度5月1日現在) 単位:人】

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6
生徒数	636	624	613	593	549	527
前年比	△47	△12	△11	△20	△44	△22

(2)部活動の内容

■大町中学校

部活動	男子バスケットボール・女子バスケットボール 男子バレーボール・女子バレーボール 男子ソフトテニス・女子ソフトテニス 卓球 陸上 バドミントン 吹奏楽 園芸部 美術部 探研・科学部					
地域クラブ	軟式野球	剣道	水泳	スキー	体操	

■美麻小中学校

部活動	美術部	バドミントン
-----	-----	--------

※八坂小中学校は部活動なし

(3)アンケート調査から見える状況

■調査目的

本市の教職員・児童生徒及びその保護者の部活動に係る意識や実態、部活動地域移行に対する考え方等を把握し、円滑な地域移行を目指して、今後の検討資料とするため

■調査対象校

大町中学校
大町東小学校
大町西小学校
大町南小学校
大町北小学校

■調査対象

小学生(5・6年)
中学生(1・2年)
保護者(対象学年)
中学校教職員
部活動指導者

■調査方法

WEB調査

○教職員及小中学生、指導者はGoogleフォームを使用(学校から依頼)

○保護者へは(すぐーるで発送)

■調査期間

令和6年10月31日～11月22日

■回答実績

	対象者数	回答者	回答率
小学生	273	220	80.59
中学生	315	237	75.24
保護者	588	310	52.72
中学教員	34	15	44.12
外部指導者		3	#DIV/0!

【主な結果】

■小学生児童(5～6年)

- ・回答者の2/3の児童が、中学入学後、部活動に参加することを希望している。
- ・学校外のクラブ等への活動希望も盛んで、多種多様である。この形態を中学校以降も継続することで、子どもたちが生涯にわたってスポーツ・文化芸術に親しめる環境となり得るように思われる。
- ・地域クラブに参加する理由も、活動レベルや専門性を求めるよりも、好きな種目に取り組み、交流を広めることが多数。

■中学生生徒(1～2年)

- ・回答者の85%の生徒が部活動に参加しており、充実した活動となっていると感じている。
- ・大会に学校出場でなく、地域クラブとして参加することについても、賛成という前向きな考え方を持っている。
- ・休日の活動も、学校部活動の延長として行いたい、指導者には専門的な指導者を望む傾向がある。
- ・学校外のクラブへの参加が多い。
- ・地域クラブ指導者には、回答者の36%の生徒が専門的指導を希望している。

■保護者(上記、児童生徒の保護者)

- ・部活動に所属する目的は、1番が「友達と楽しく活動するため」(32.6%) 2番が「体力・技術を向上させるため」3番が「チームワーク・協調性・共感を味わいたいため」(22.8%)である。これは、子どもたちの目的とほぼ同様である。
- ・小学生、中学生のアンケートと同様、学校外のクラブ活動も盛んである。
- ・許容できる一月当たりの費用負担は、2,000円から3,000円以下が半数を占めるが、5,000円以下と回答した保護者も2割程度いた。
- ・学校部活動の継続を望むが、指導者は専門的な指導者を望む傾向がある。
- ・地域クラブ指導者には、回答者の半数以上が専門的指導を希望しており、中学生よりも高い。
- ・地域移行により、施設利用料等や移動方法、送迎の負担が増えることへの不安を感じている。

■中学校教員(大町中学校のみ)

- ・部活動指導にやりがいを感じつつも、過度な負担があると考える教員が多い。
- ・部活動指導に当たることで、主たる業務が疎かになることへの不安が大きい。
- ・現行制度の改善を望む回答が多い。

4 計画の目標

大町市では、『大町市第5次総合計画』において、「郷土や文化に誇りを持ち、心から地域を愛する人を育てる」を基本理念に据え、子どもたちが、個性や能力を伸ばせるよう、学校や地域の教育環境の充実を図ることにより、将来の大町市を担う若者の育成に取り組むこととしています。

これまで部活動が担っていた役割・機能を地域社会に移行・展開し、生徒が自分のやりたい活動に自分らしく取り組めるよう、地域全体におけるスポーツ・文化芸術活動の環境整備を進めます。

(1) 心豊かにたくましく生きる子どもの育成

将来への目的意識や自己有用感、人を思いやる心と、社会において自立的に生きるために必要な「真に協働し、力強く生き抜いていく力」を育む。

(2) 生きがいに満ちた生涯学習機会の提供

生涯学習推進プランに基づき、生涯各期における学習機会や多様な分野の学習機会の充実、学習環境の整備を進めるとともに、生きがいに満ちた生涯学習の推進を図る。

(3) 文化・スポーツに親しむ機会の充実

文化活動の各種サークル等の連携を促進し、地域全体の文化活動の振興を図る。スポーツ推進計画に沿って、市民一人ひとりが、気軽にスポーツを楽しみ、いきいきと健康で元気に過ごすことができるように、スポーツに親しむ機会の充実を図る。

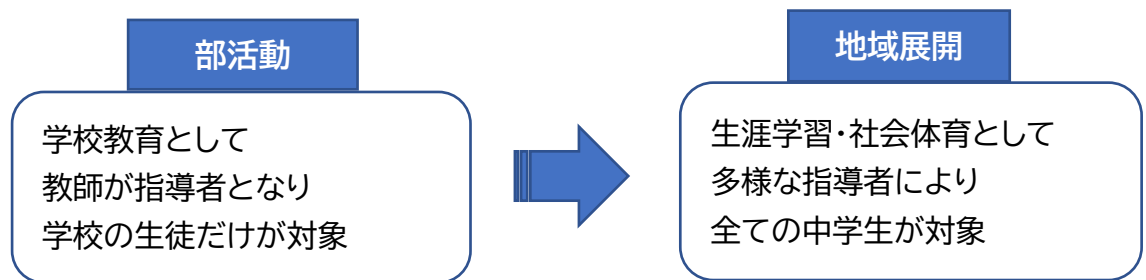
子どもたちの『やりたい・楽しみたい』を地域で

5 基本方針

基本目標を実現するため、基本方針を定め地域展開を推進します。

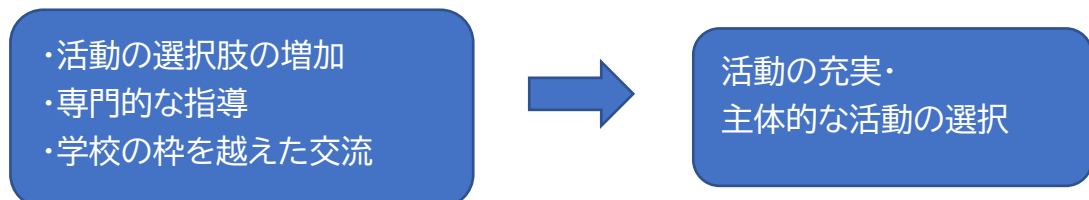
I 中学校部活動の地域展開の目的

地域において、子どもたちが生涯にわたってスポーツ・文化に親しめる環境を構築する。教員の部活動への負担を軽減し、学校教育の質の向上を図る。



II 地域展開の目指すもの

■中学生にとって

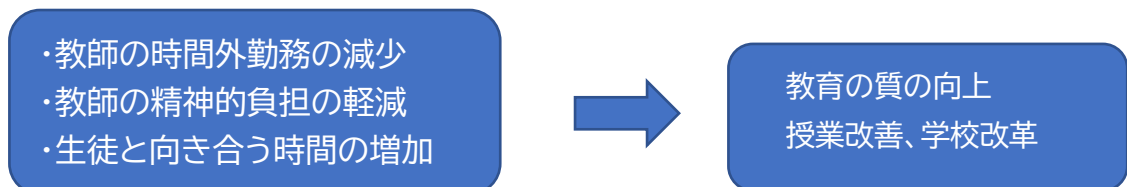


・学校部活動ではできなかった多様な活動に触れる選択肢が増えるとともに、専門性の高い指導が受けられる。

・地域ならではのスポーツ・文化活動をとおして、地域への関心や郷土愛を高める機会に繋がる。

・様々な価値観を持つ地域の方々との交流を通して、コミュニケーション能力の向上に繋がる教育的効果も期待できる。

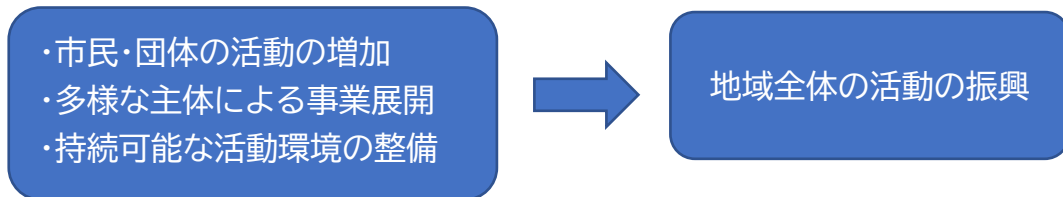
■学校・教員にとって



・部活動指導の負担が減り、授業準備など本来業務に多くの時間とエネルギーを割けるようになる。

・地域との関係性が強まり、コミュニティ・スクールを核とした学校と地域との連携・協働の推進につながる。

■地域にとって



・「地域の子どもは学校を含めた地域で育てる」の理念のもと、活力ある絆の強い地域社会創りにつながる。

・地域ならではのスポーツ・文化活動の後継者の育成につながる。

・地域での連携、顔の見える関係性が向上し、地域防災や防犯の共助につながる。

6 移行スケジュール

大町市では、国・県のガイドラインに則り、令和8年度末を目途に、まずは、休日の部活動を地域クラブでの活動へ移行します。

また、平日はできるところから移行を進め、平日の移行が難しい場合でも生徒の活動を保障しつつ、教員の勤務時間外の部活動指導を減らす工夫を検討・実施します。なお、地域活動展開時期は一律に適用するのではなく、種目や地域の実情に応じて弾力的に進めることとします。

【令和6年度(制度設計期)】

部活動の地域展開に関するアンケートの実施
推進協議会設立準備会で協議会設立準備

【令和7年度(展開準備期)】

推進協議会設立
地域展開推進計画を策定・公表
モデルケースでの実施(指導者謝礼補助・指導者資格取得補助等)
運営団体・実施主体及び支援策を検討
施設利用(学校・体育施設、公民館等)の使用料・予約のルールを整備

令和8年度以降の段階的目標

【令和8年度～休日展開期】

休日の地域活動開始
地域活動の拡充(説明会開催、市ホームページ掲載)
各種支援策の実施、指導者研修会の実施
地域・種目による活動状況の調整
令和8年度末を目途に休日の部活動の地域展開完了

【令和9年度～(平日展開期)】

休日展開の検証により、平日展開の進め方を再度検討
体制が整った部活動から、段階的に平日部活動を展開



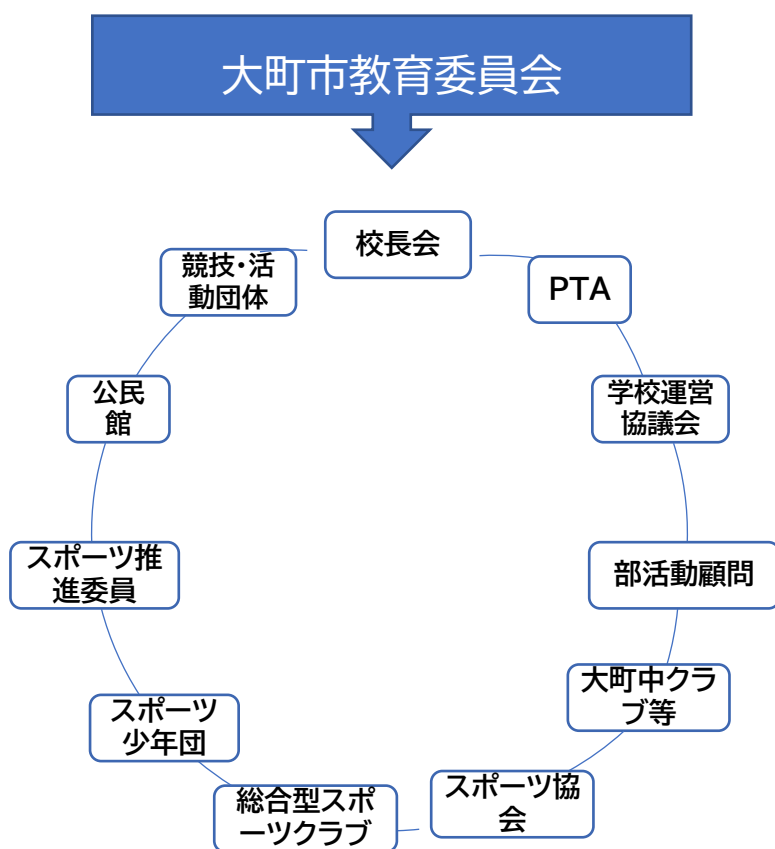
令和10年度 完全展開を目指す

7 計画の推進体制

(1)大町市学校部活動地域展開推進協議会

大町市では、令和7年度から、学校部活動の地域展開を円滑に進めるため、課題を検討し、市の基本的な方針を協議することを目的に、学校関係者、保護者、スポーツ関係者等で構成する推進協議会を設立し、地域展開が完了するまで定期的
に開催し、協議を重ねてまいります。

大町市学校部活動地域展開推進協議会組織図



■部活動地域展開推進協議会は、学校と地域が連携して学校部活動を地域において展開するための課題に取り組む。また、地域の実情を踏まえ、スポーツ・文化活動の機会を確保するために、学校や地域の実態に応じて、スポーツ団体や保護者、民間事業者などの協力の下、地域における地域クラブ活動の環境整備を進める。

- ・地域展開に向けた方向性(基本方針・推進計画)を協議・検討する。
- ・地域展開に向けた課題改善に総合的に取り組む。
- ・地域の実情を踏まえた地域クラブの運営方法を検討する。

(2)地域クラブ実施主体

大町市では、地域クラブ活動の実施主体として、スポーツ協会、競技団体、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブなど、運営組織やノウハウ、指導者を備えている既存団体のほか、住民組織や保護者、民間事業者が新たに地域クラブを立ち上げ活動を開始することも想定されます。

(3)地域クラブ運営団体

学校部活動では各中学校が運営団体となっていますが、地域クラブでの活動は、実施主体と連携し、適正で持続可能な運営体制を構築し、会計処理、会場確保、指導者指導、安全管理等実務を行う、運営団体を設ける必要があります。

運営団体は市町村や、市町村が地域の団体と連携したり、体育・スポーツ協会や、文化・芸術協会が主体となって運営するなど、自治体により様々です。

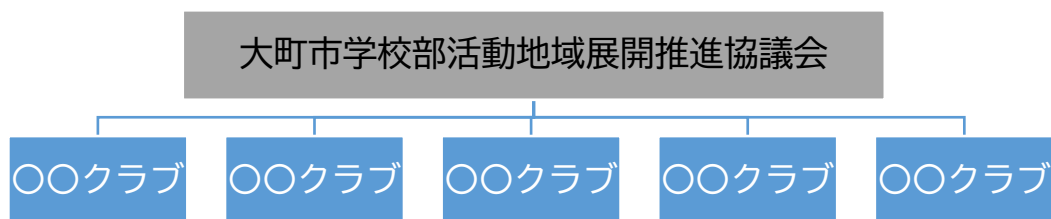
運営団体は、推進協議会が地域の実情に応じた運営団体の選定を行うこととしており、当面の間、「大町市学校部活動地域展開推進協議会」が運営団体として事務を担います。

■運営団体の役割

実施主体(地域クラブ等)の運営をサポートする業務を担う。

- ・地域クラブ指導者への助言、指導、研修の実施
- ・指導者の確保、管理、育成
- ・活動場所の確保、調整事務

<運営団体のイメージ>



8 推進計画の見直し

本計画は及び長野県の指針・ガイドラインをもとに、大町市学校部活動推進協議会で検討を重ね、本市の実情に合った展開計画として策定したものです。

今後、本計画を踏まえた部活動や地域クラブ活動の取組状況を把握するとともに、国や長野県の指針・ガイドラインが改訂された場合などには、必要に応じて見直しを行います。

資料編

■大町市部活動地域展開推進協議会委員名簿

団体	役職名	氏名
教育委員会	教育長	中村 一郎
中学校代表	大町中学校長	塚田 秀
市内校長会	八坂小中学校長	永田 治
大町中学校 PTA 代表	PTA 会長	青木 章
大町中学校運営協議会代表	副会長・大町中学校イベントサークル代表	勝野 英男
大町中学校部活動顧問(運動部)	女子バスケット部顧問	本藤 拓哉
大町中学校部活動顧問(文化部)	吹奏楽部顧問	山田 空平
大町中学校運動部保護者代表	女子バスケットボール部保護者会長	石原 桂子
大町中学校文化部保護者代表	文化クラブ運営委員会会長	宮田 実香
スポーツ協会	市スポーツ協会長	中島 登美雄
総合型地域スポーツクラブ代表	市スポーツ協会事務局長	北村 桂一
スポーツ少年団代表	市スポーツ少年団本部長	相川 利幸
公民館	大町公民館長	西澤 剛
市スポーツ推進委員	スポーツ推進委員	藤巻 雅幸
部活動指導員代表	大町中学校卓球部指導員	平林 俊彦
小学校クラブ活動指導者代表	大町北小学校金管バンド指導者	松澤 景子

■協議実績

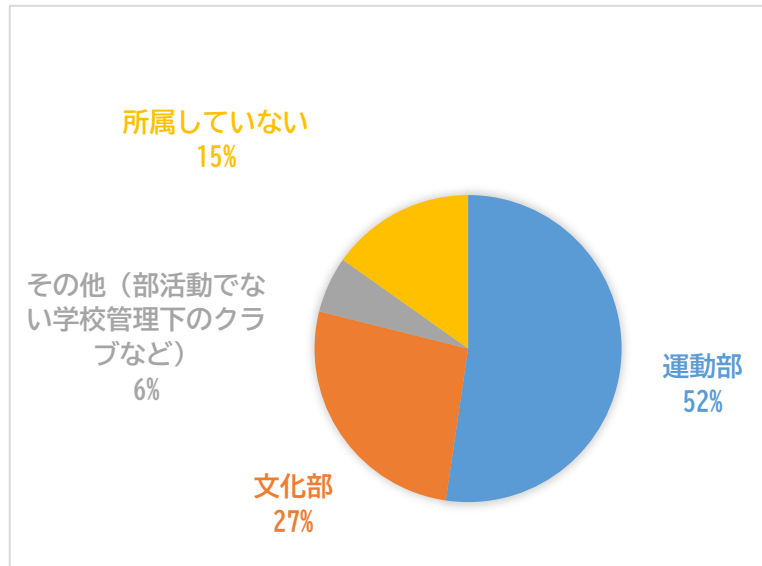
回数	開催日	協議内容
第1回 準備委員会	令和6年12月13日	国・県の状況報告 市アンケート結果報告
第2回 準備委員会	令和7年2月19日	推進協議会設立準備 グループ討議
第1回 推進協議会	令和7年4月25日	推進計画等協議
第2回 推進協議会		

■地域クラブ移行に関するアンケート結果　＜別添＞

中学生アンケート結果

【回答者 237人 回答率 75.24%】

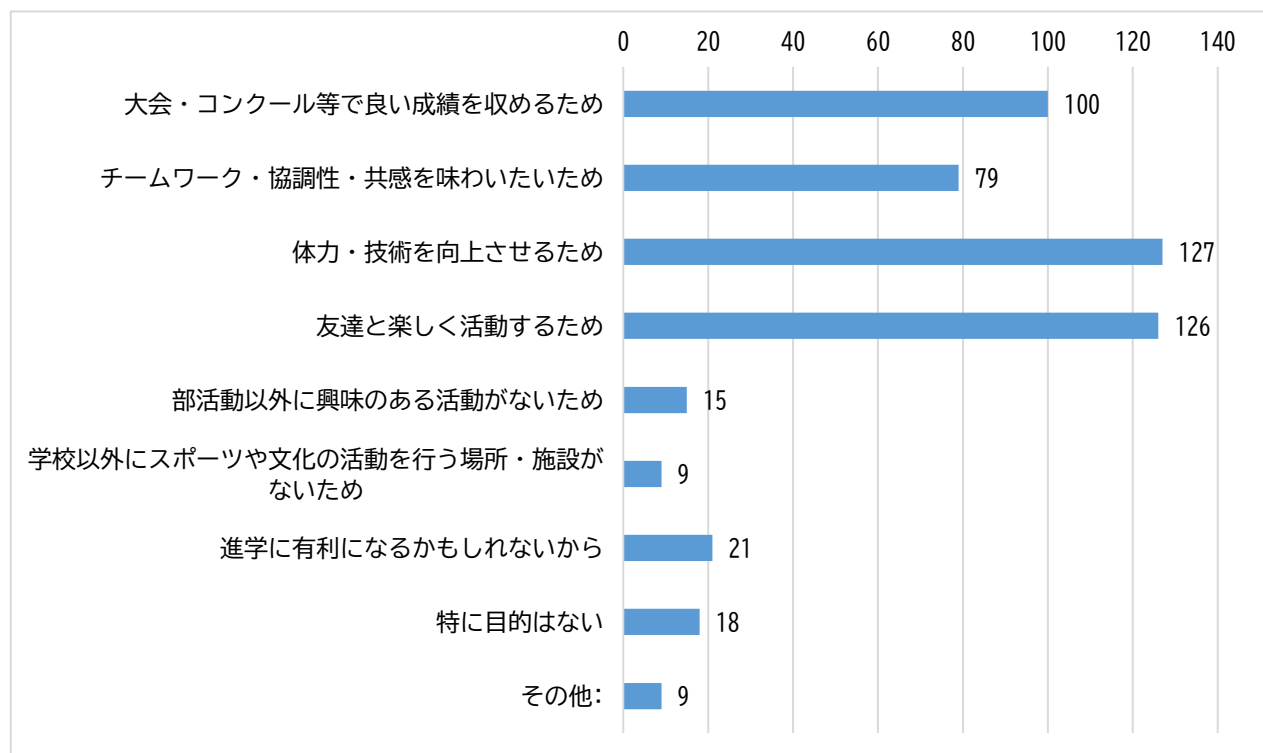
Q1. あなたは、学校の部活動に所属していますか。



【考察】

145人（85%）の生徒が入部していると回答。運動部への入部が多く、入部している生徒の62%を占めている。

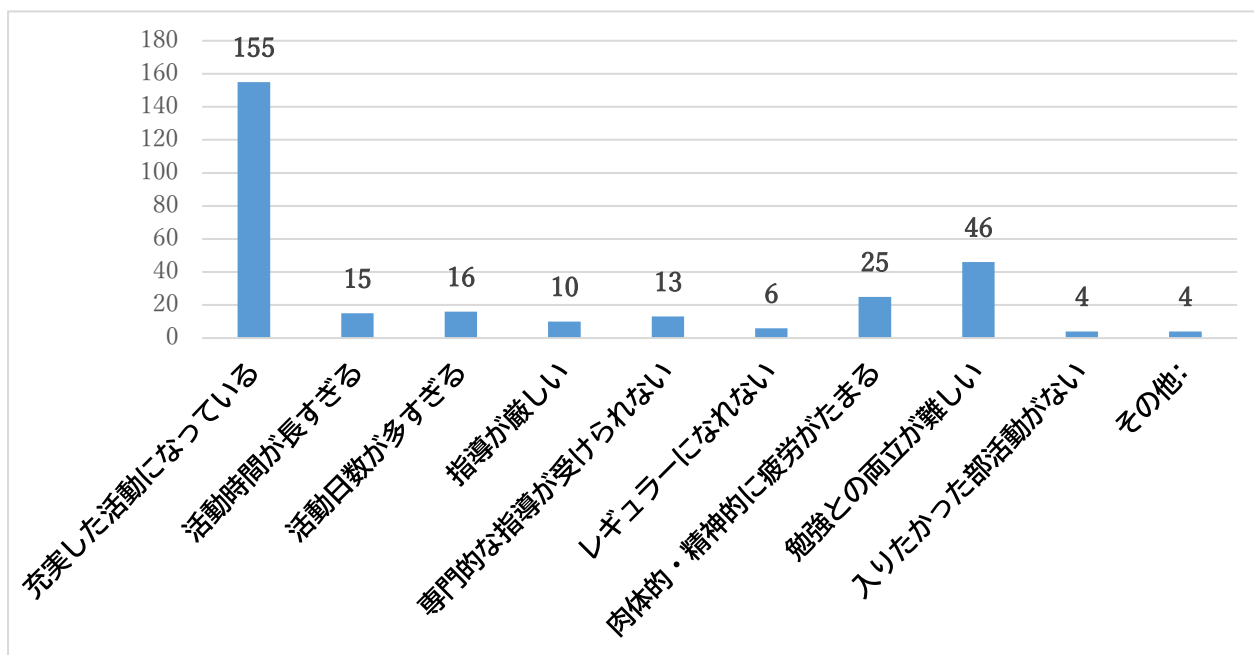
Q2. 部活動に所属している目的についてお聞きます。（複数回答）



【考察】

「体力・技術を向上させるため」「友達と楽しく活動するため」が半数(50.2%)。次に、「大会・コンクール等で良い成績を収めるため」(19.8%)、「チームワーク・協調性・共感を味わいたい」(15.7%)が多い。

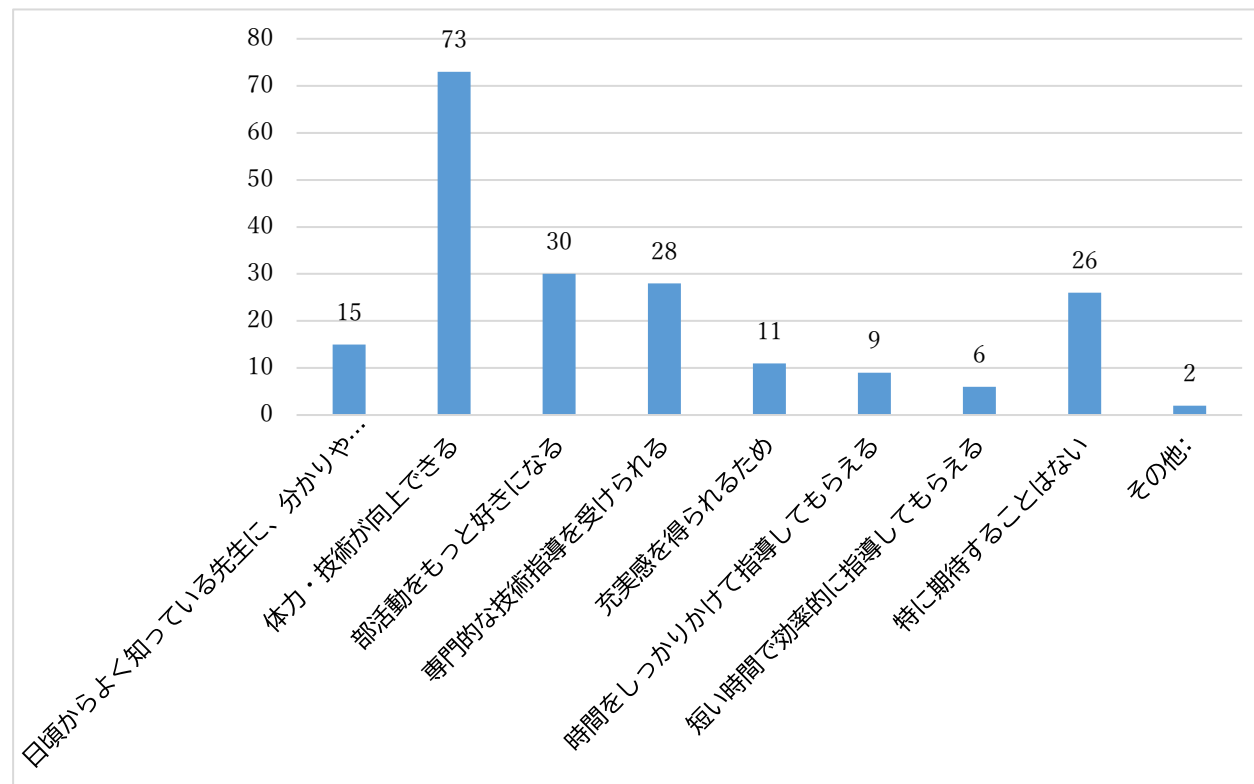
Q3. 所属している部活動の活動状況についてお聞きます。(複数回答)



【考察】

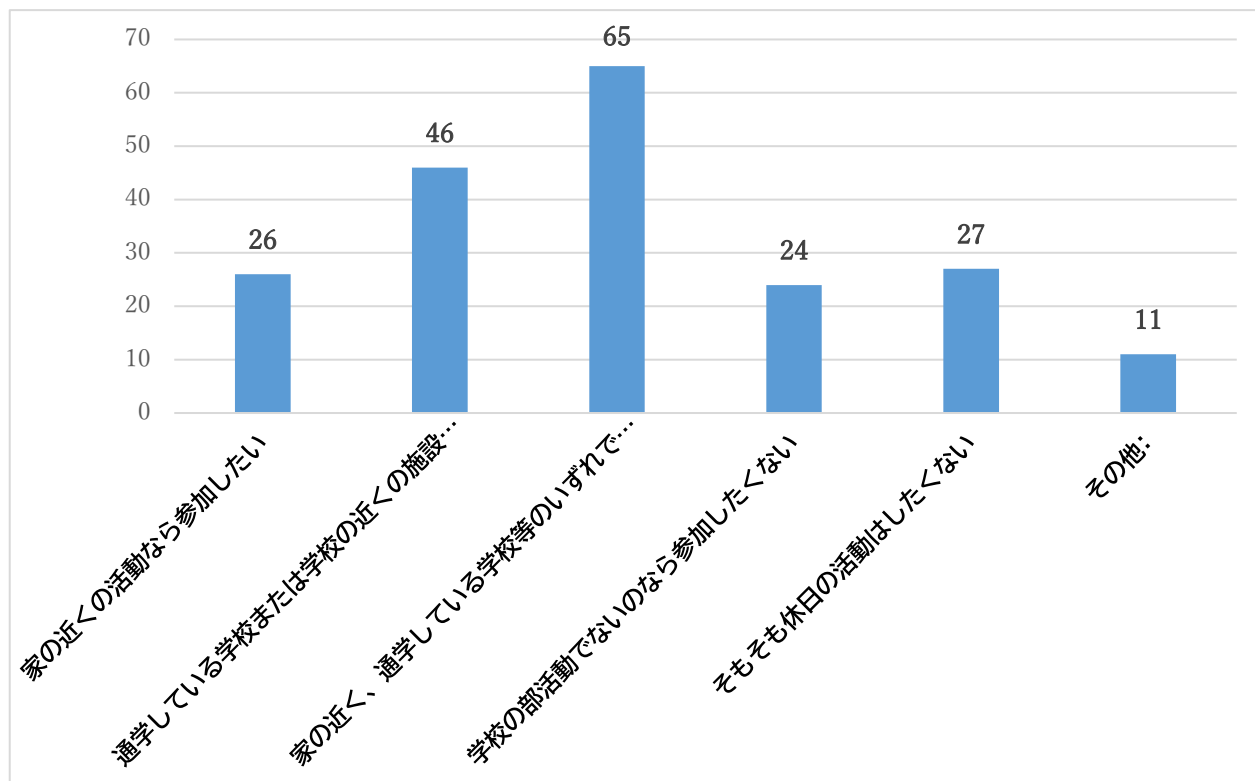
「充実した活動になっている」が半数(52, 7%)。続いて、「勉強との両立が難しい」(15.6%)、「肉体的・精神的に疲労がたまる」(8.5%)である。

Q4. 部活動の顧問や指導員の指導への期待についてお聞きます。(複数回答)



【考察】「体力・技術が向上できる」との回答が多数。

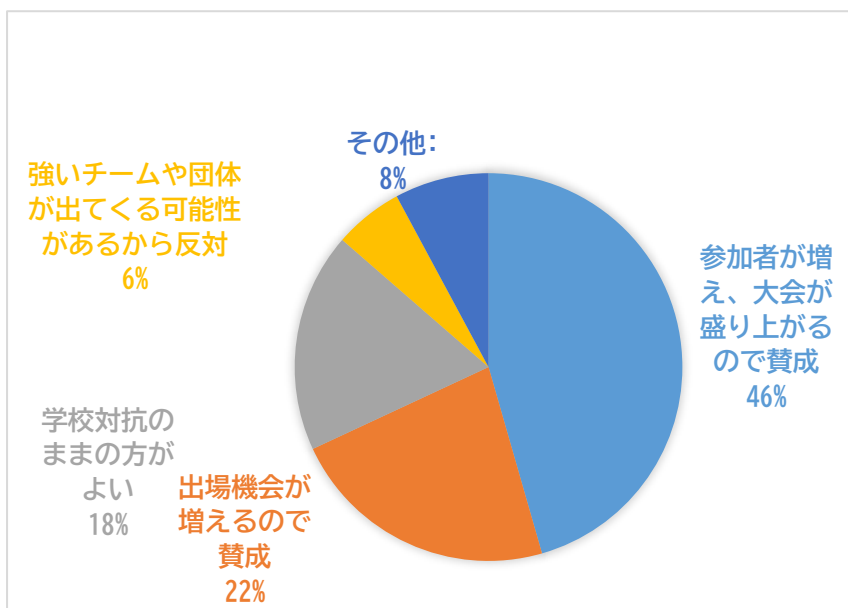
Q5. 休日の部活動が学校外の活動となり、地域クラブ活動に切り替わった場合、参加したいと思いますか。



【考察】

「家の近く、通学している学校等いずれでなくても、自分が求める条件に合うところがあれば参加したい」が全体の3割（32.7%）と多い。次に多いのが、小学生の場合は「家の近くの活動なら参加したい」であるが、中学生では、「通学している学校または学校の近くの施設でなら活動したい」（22.7%）となっている。

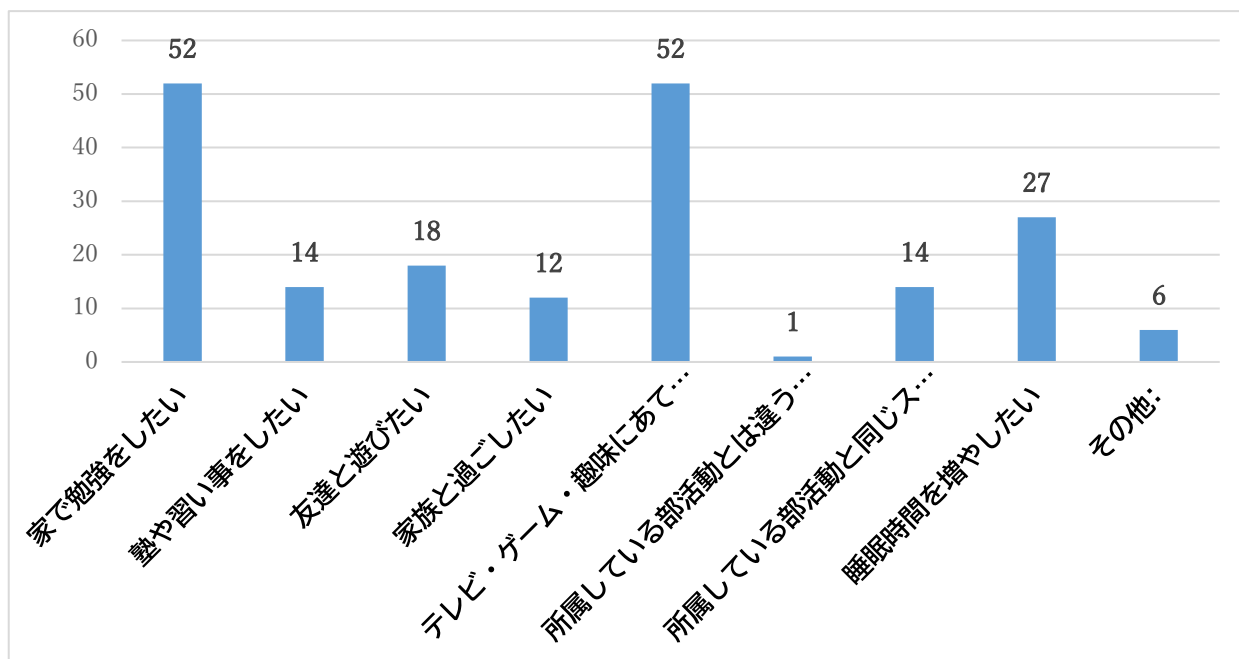
Q6. 大会やコンクールに、地域クラブチーム等が参加することになったら、どのように思いますか。



【考察】

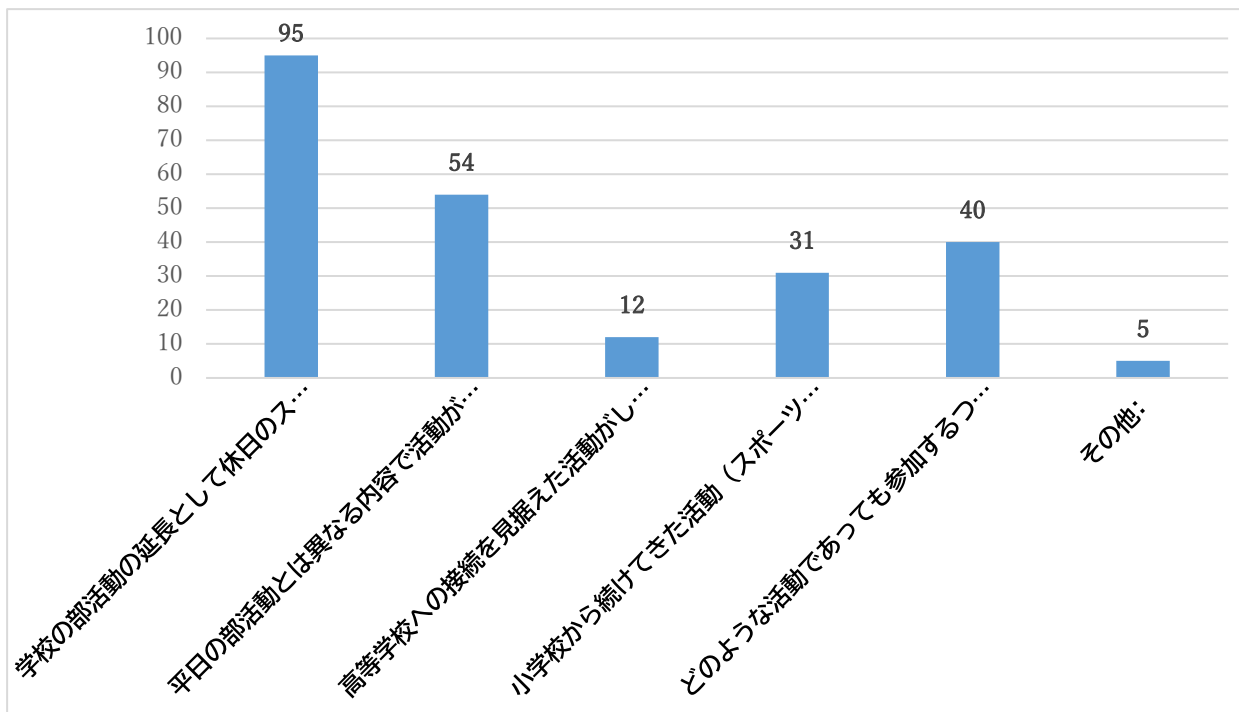
「参加者が増え、大会が盛り上がるので賛成」「出場機会が増えるので賛成」を合わせると 130 名 (68%) である。大会等に地域クラブが参加することに前向きである。

Q7. 学校の部活動の時間が短くなった場合、自由になった時間をどんなことに使いたいですか。



【考察】「家で勉強をしたい」、「テレビ・ゲーム・趣味にあてたい」が一番多い。(各 26.5%)

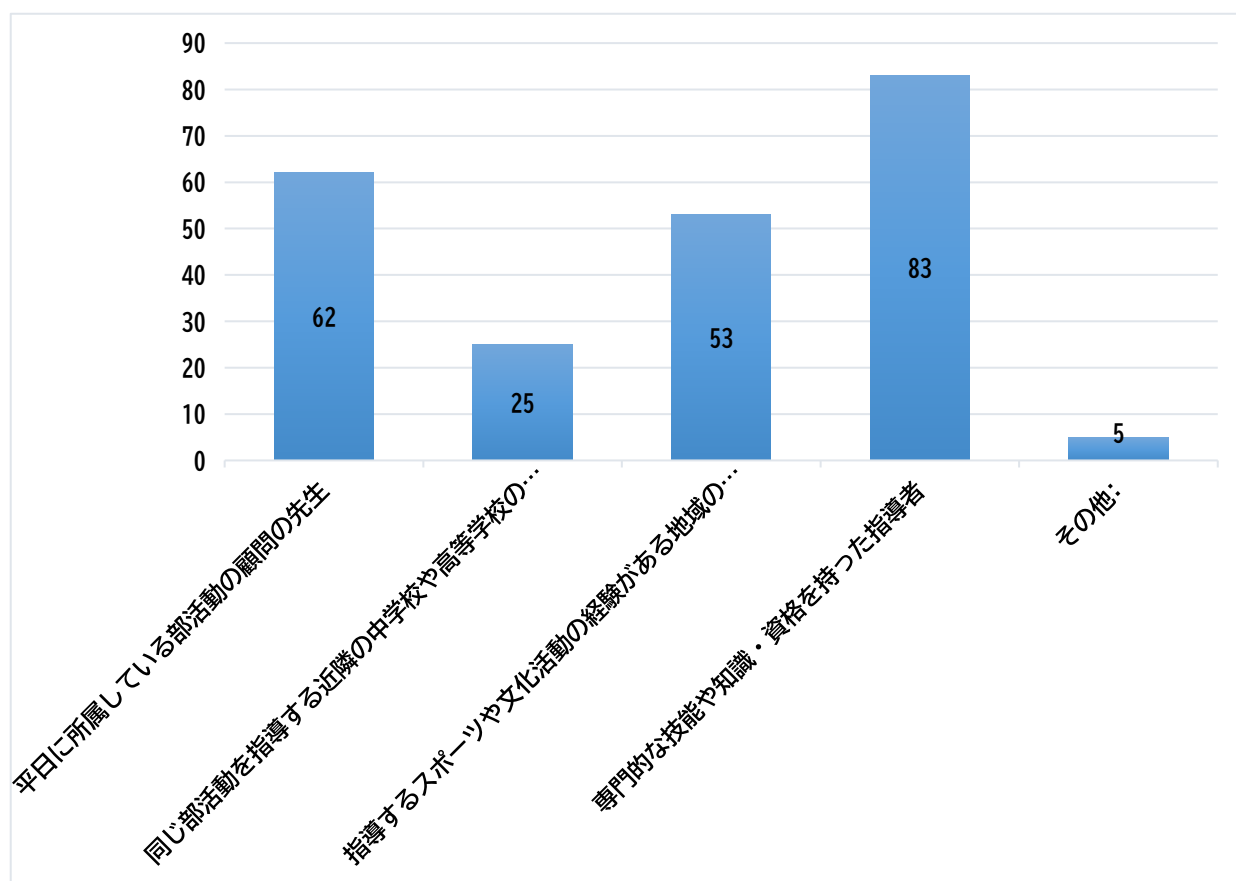
Q8. 休日の地域クラブの活動に期待するものはどのような事かお聞きします。



【考察】

「学校の部活動の延長として休日のスポーツや文化活動をしたい(学校の部活動と一貫した指導をしてほしい)」が多数(40%)。

Q9. 休日の地域クラブの指導者に期待するものはどのような事かお聞きします。



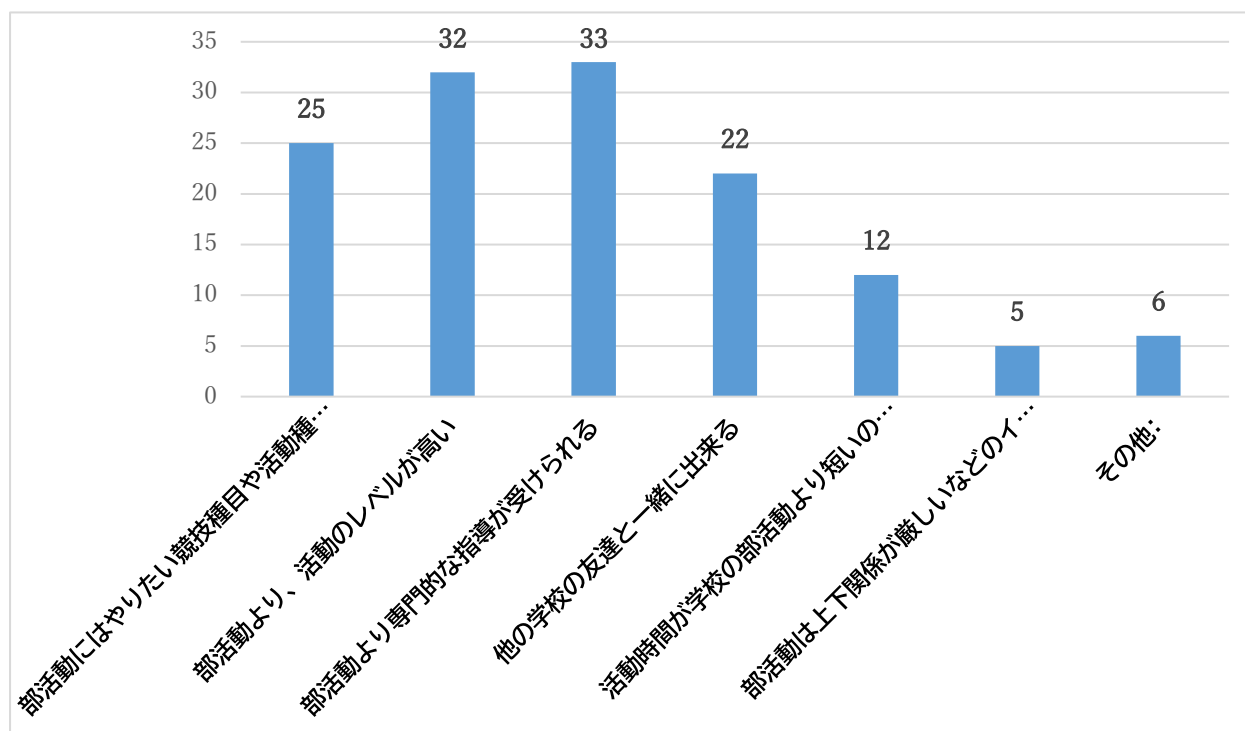
【考察】

「平日に所属している部活動の顧問の先生」を希望する生徒が 27%いるが、「専門的な技能や知識・資格を持った指導者」希望が 36.4%、「指導するスポーツ・文化活動の経験がある地域の大人や大学生等」希望が 23.2%と多い。安心感を求めながらも、専門的な指導を受けたいという願いが感じられる。

Q10. あなたが所属・活動している「学校以外のスポーツ・文化活動等」のクラブ名や団体名、スクール名や教室名などをお教えてください。

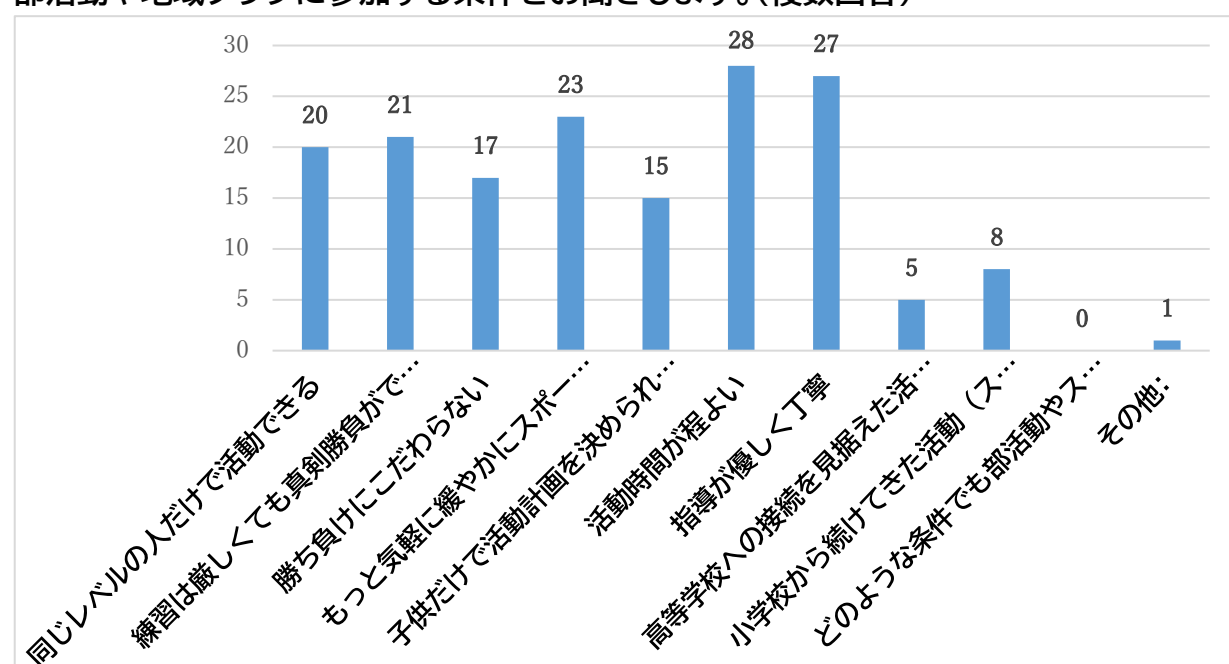
回答	71 件
参加する団体	77 団体(サッカー、野球、ソフトテニスなど)

Q11. 部活動ではなく、学校外の地域クラブ活動を選んだ理由をお聞きます。
(複数回答可)



【考察】専門的な指導を受け、活動のレベルを高めたいと願う生徒が多い。(全体の48%)

Q12. (部活動・地域クラブいずれも参加していない生徒対象)
部活動や地域クラブに参加する条件をお聞きます。(複数回答)



【考察】

小学生と同様に、「活動時間が程よい」(17%)、「優しく丁寧な指導」(16.4%)、「気軽に緩やかにスポーツ・文化活動ができる」(14%)を求めている。

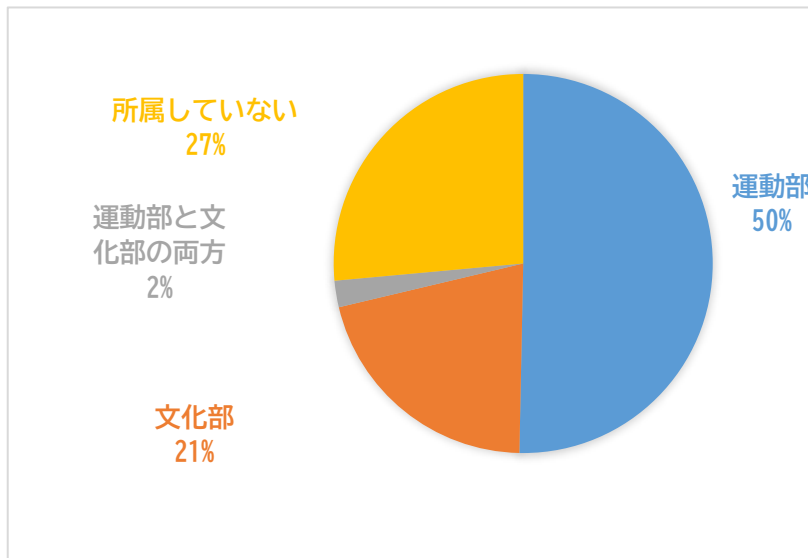
【全体考察】

- ほとんどの生徒が部活動に所属しており、充実した活動となっていると感じている。
- 大会に学校出場でなく、地域クラブとして参加することについても、賛成という前向きな考え方を持っている。
- 休日の活動も、学校部活動の延長として行いたい、指導者には専門的な指導者を望む傾向がある。
- 学校外のクラブへの参加が多い。
- 地域クラブには 活動レベルの高さ 専門的指導を希望している

保護者アンケート結果

【回答者 310 人 回答率 52.72%】

Q1 お子様の部活動の所属状況についてお聞きます。

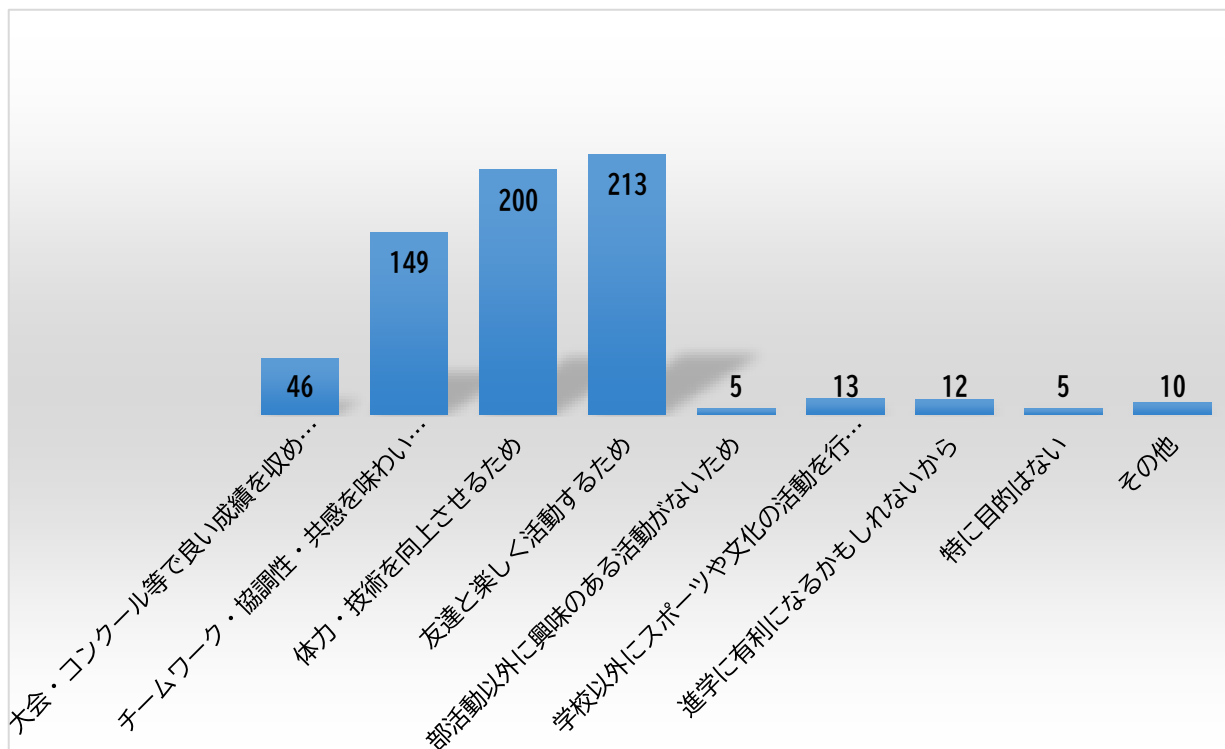


【考察】

部活動に所属（所属する予定）が74%であり、所属していない（所属しない予定）が26%である。

Q2 お子様が部活動に所属している（所属する予定）目的についてお聞きます。

（複数回答可）

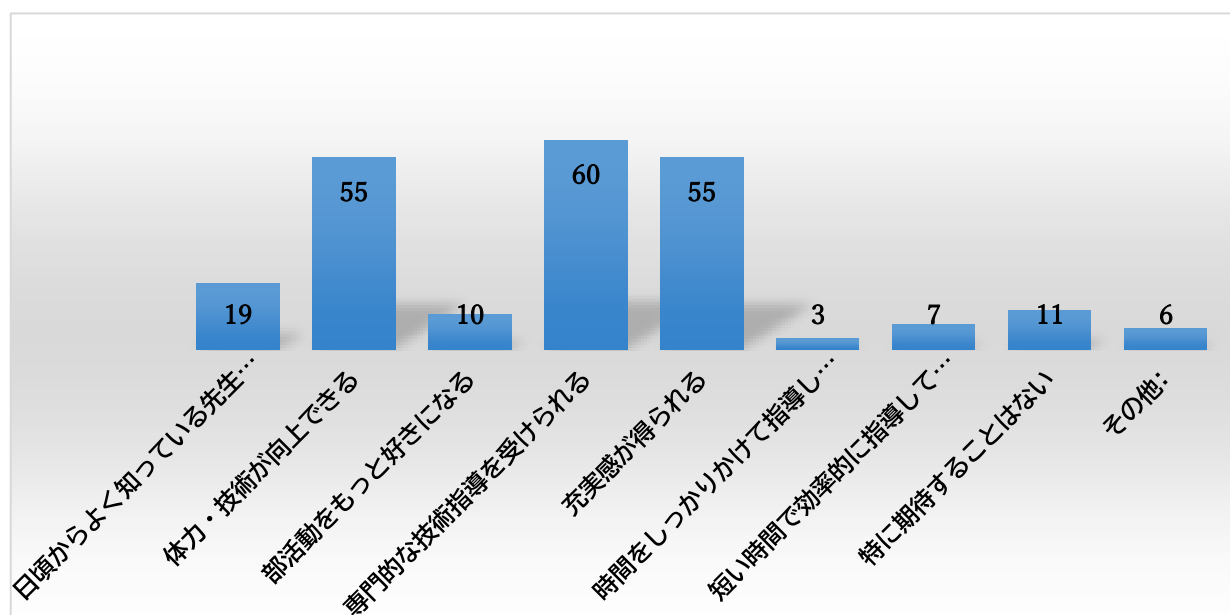


【考察】

1 番が「友達と楽しく活動するため」(32.6%) 2 番が「体力・技術を向上させるため」3 番が「チームワーク・協調性・共感を味わいたい」(22.8%)である。これは、子どもたちの目的とほぼ同様である。部活動を通して、様々な経験をして欲しいと望んでいる。

【比較】子どもたちの目的…1 番「体力・技術を向上させるため」(26.6%) 2 番「友達と楽しく活動するため」(26.3%) 3 番「チームワーク・協調性・共感を味わいたい」(15.7%)

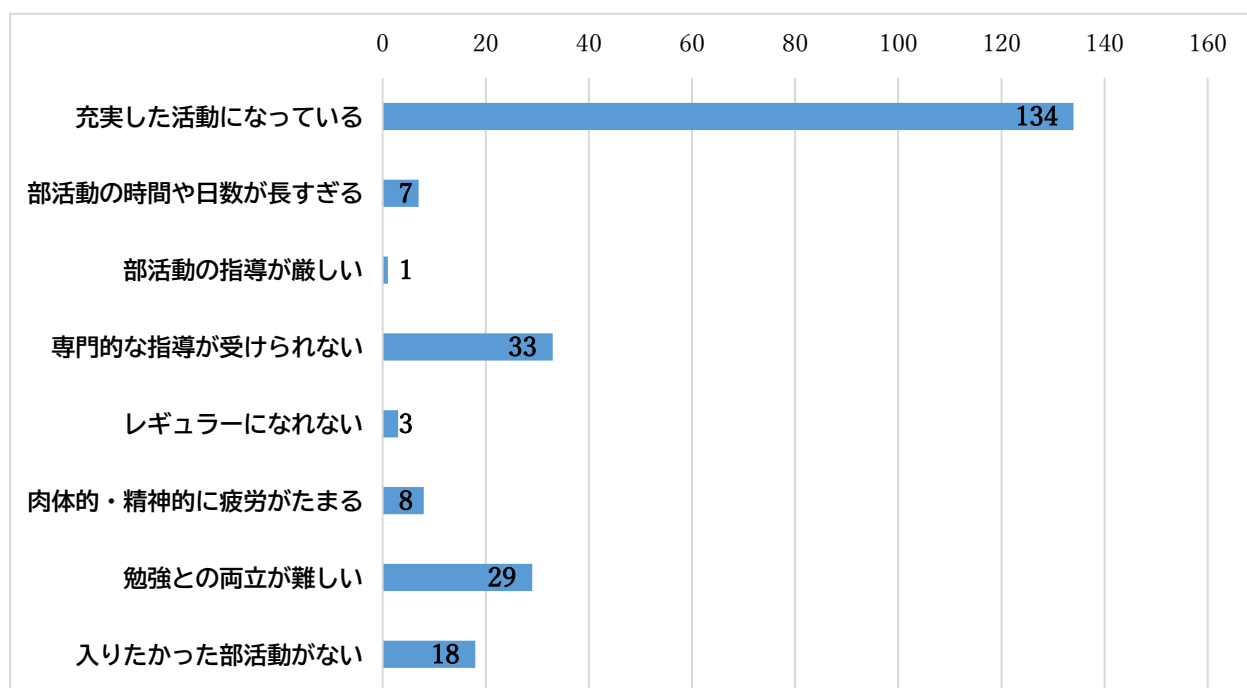
Q3. お子様が部活動の顧問や指導員からの指導に、どのようなことを期待しますか。



【考察】

体力・技術の向上、充実感を得られることへの期待が大きい。

Q4. 現在の部活動の状況についてお聞きます。(複数回答可)

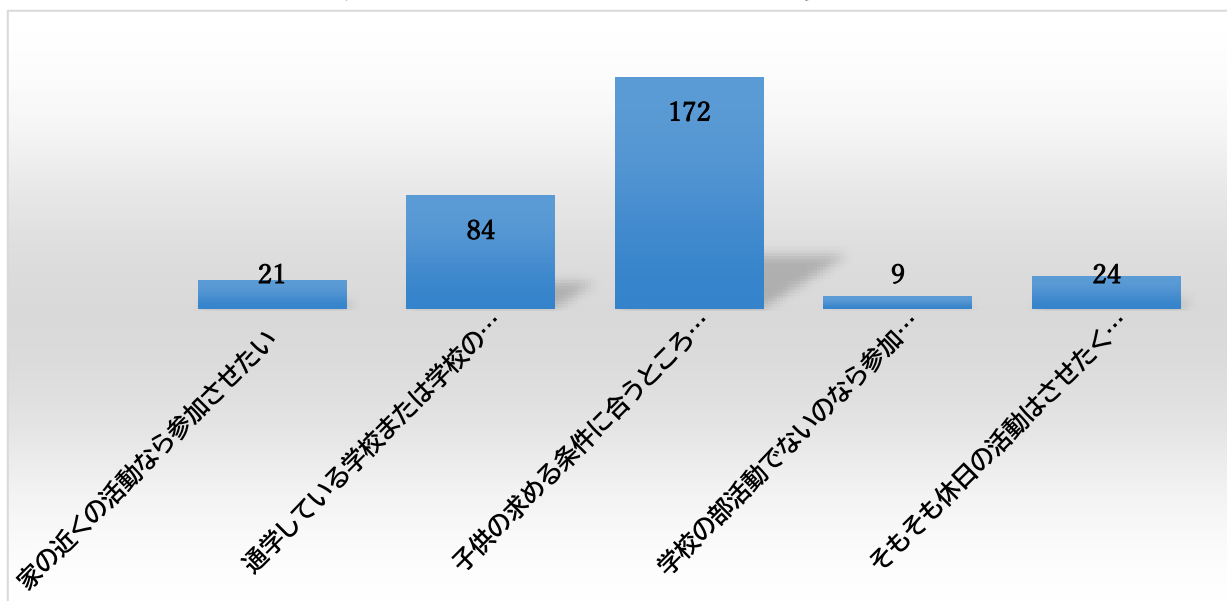


【考察】

多くの保護者は、「充実した活動になっている」と回答している。

およそ6割の保護者が満足しているが、様々な不満を感じている保護者もいる。「専門的な指導がうけられていないこと」、「勉強との両立ができていないこと」をあげている保護者がおよそ1割いる。

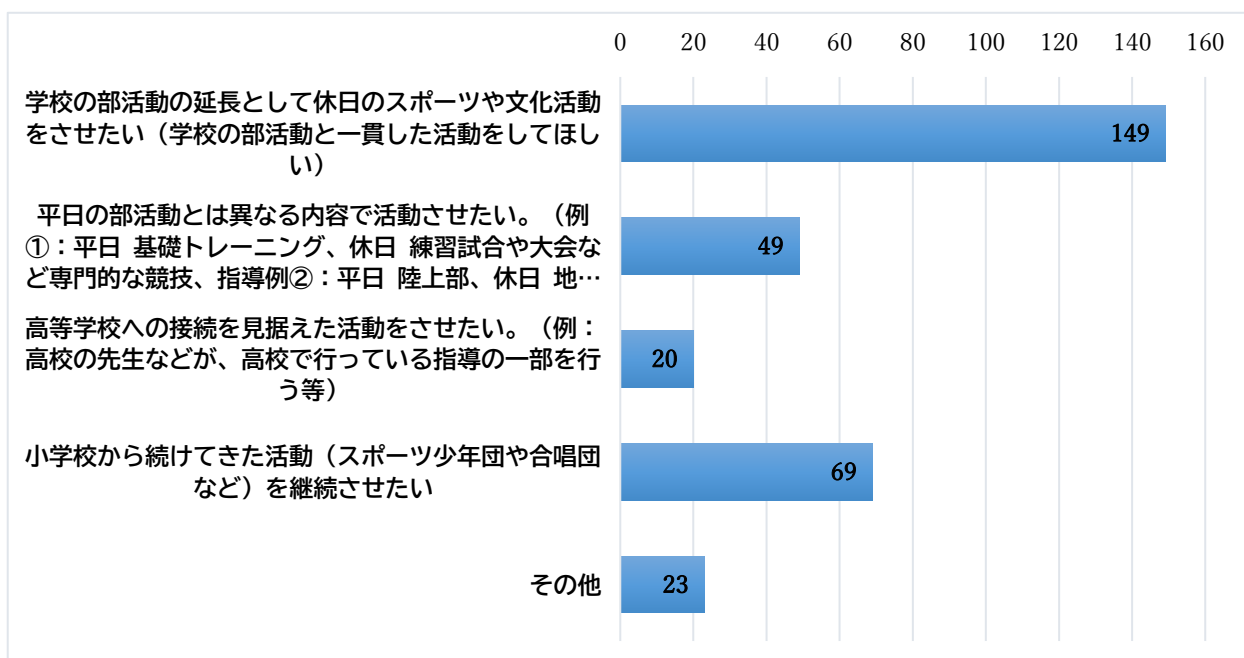
Q5. 休日の部活動が地域クラブとなった場合のお子様の参加についてお聞きます。



【考察】

「子供の求める条件に合うところがあれば参加させたい」と思っている保護者が（55.4%）半数以上である。「通学している学校または学校の近くの施設なら活動させたい」という保護者も27%と多い。

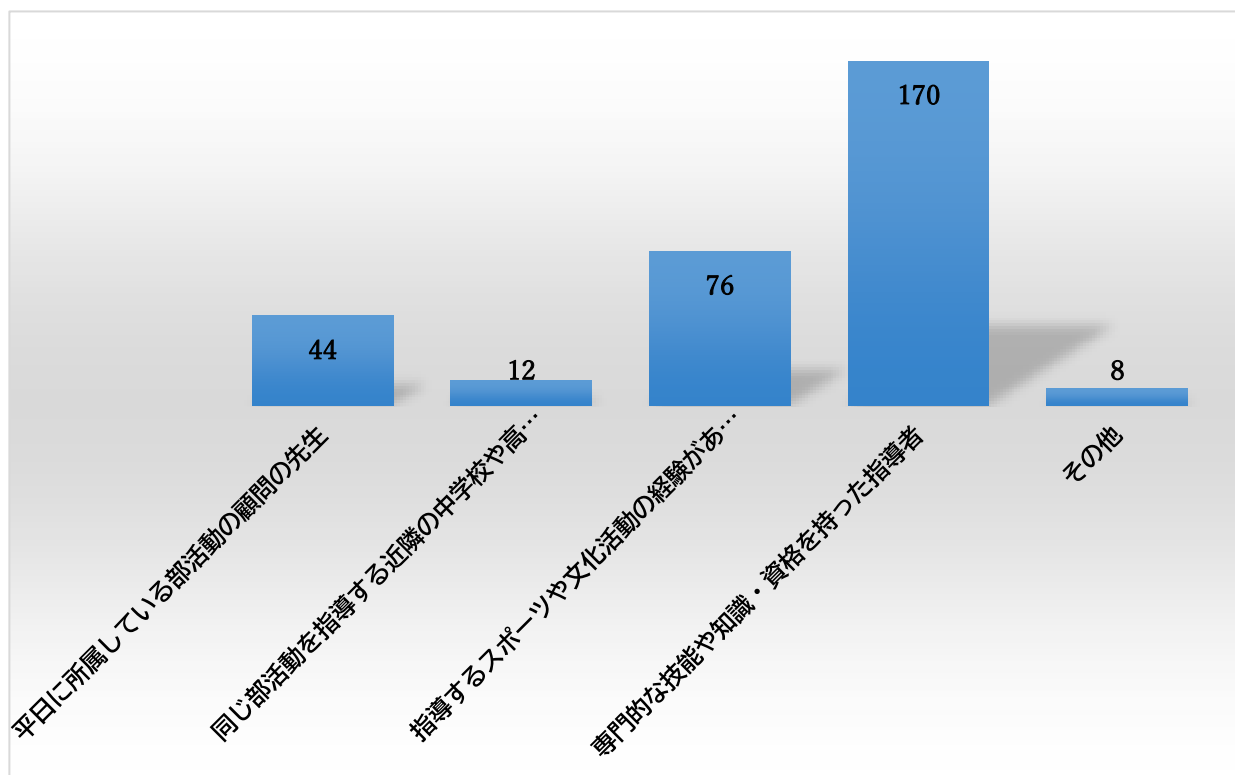
Q6. お子様が参加する休日の地域クラブの活動はどのようなものを希望しますか。



【考察】

「学校の部活動の延長として休日のスポーツや文化活動をさせたい（学校の部活動と一貫した活動をしてほしい）」を望む保護者が多い。（48%）

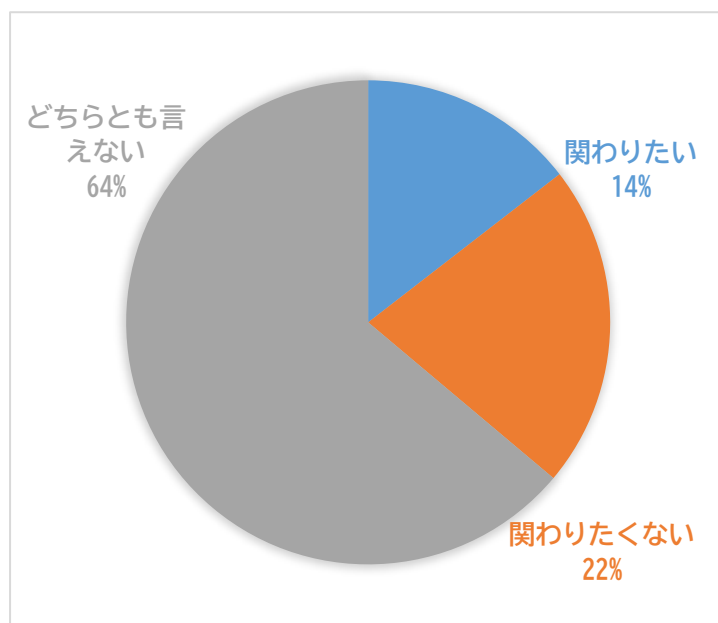
Q7. お子様の地域クラブの指導者にどのような事を期待しますか。



【考察】

半数以上の保護者(54.8%)が「専門的な技能や知識・資格を持った指導者」を望んでいる。
 ※地域クラブの活動について、「学校の部活動の延長として休日のスポーツや文化活動をさせたい」と望む保護者が多い、一方で、指導者には「専門的な技能や知識・資格を持った指導者」を望んでいる。

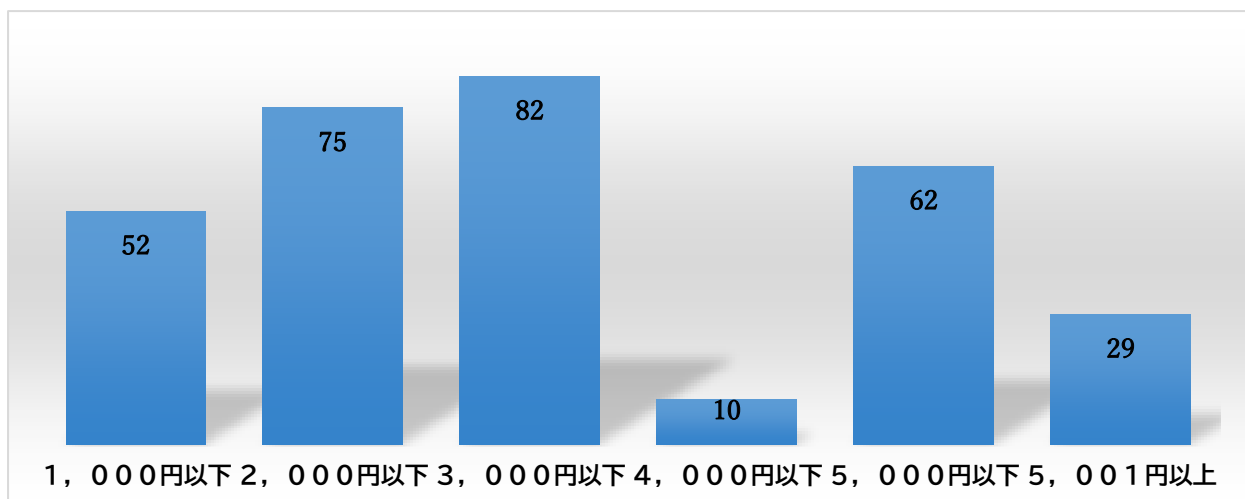
Q8. 保護者が地域クラブ活動に指導者として関わることに、どう考えますか。



【考察】

「関わりたくない」と答えた保護者が21.6%と多い。「どちらとも言えない」と答えた保護者が63%いる。「どちらとも言えない」「関わりたくない」という保護者に「関わりたい」「関わっても良い」と思ってもらえるような条件整備等を行っていくことが重要である。

Q9. 地域クラブ活動の、ひと月あたりどの程度の費用負担が可能かお聞きします。

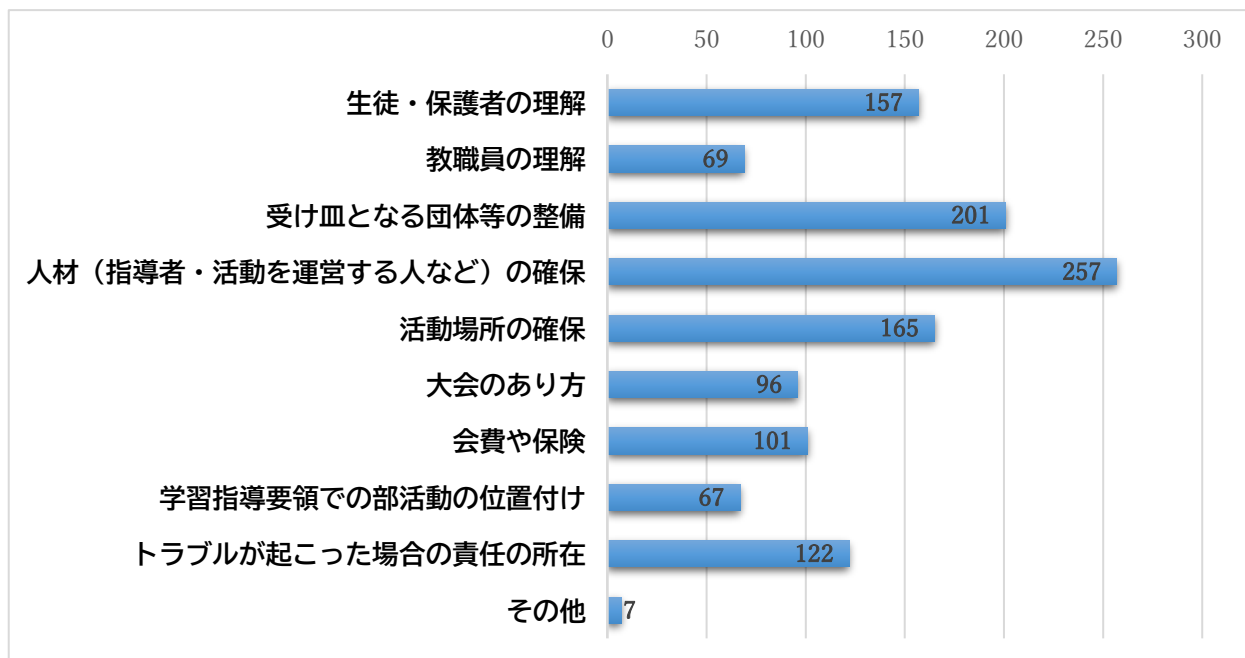


【考察】

一月当たりの費用負担は、2,000 円から 3,000 円以下が半数を占めるが、5,000 円以下を回答した保護者も2割程度いた。

4,000 円以上の負担でも可能という保護者が 30%いるが、3,000 円以下という保護者が 67.4%である。2,000 円以下が 40.9%であるので、高額となる負担は難しい。

Q10. あなたは「部活動の地域移行」に向けて、解決すべき課題は何だと考えますか。
(複数選択可)



【考察】

教職員へのアンケート結果とほぼ同様の傾向が見られる。「受け皿となる団体等の整備」(16.2%) 「人材の確保」(20.7%) がやはり大きな課題と思われる。

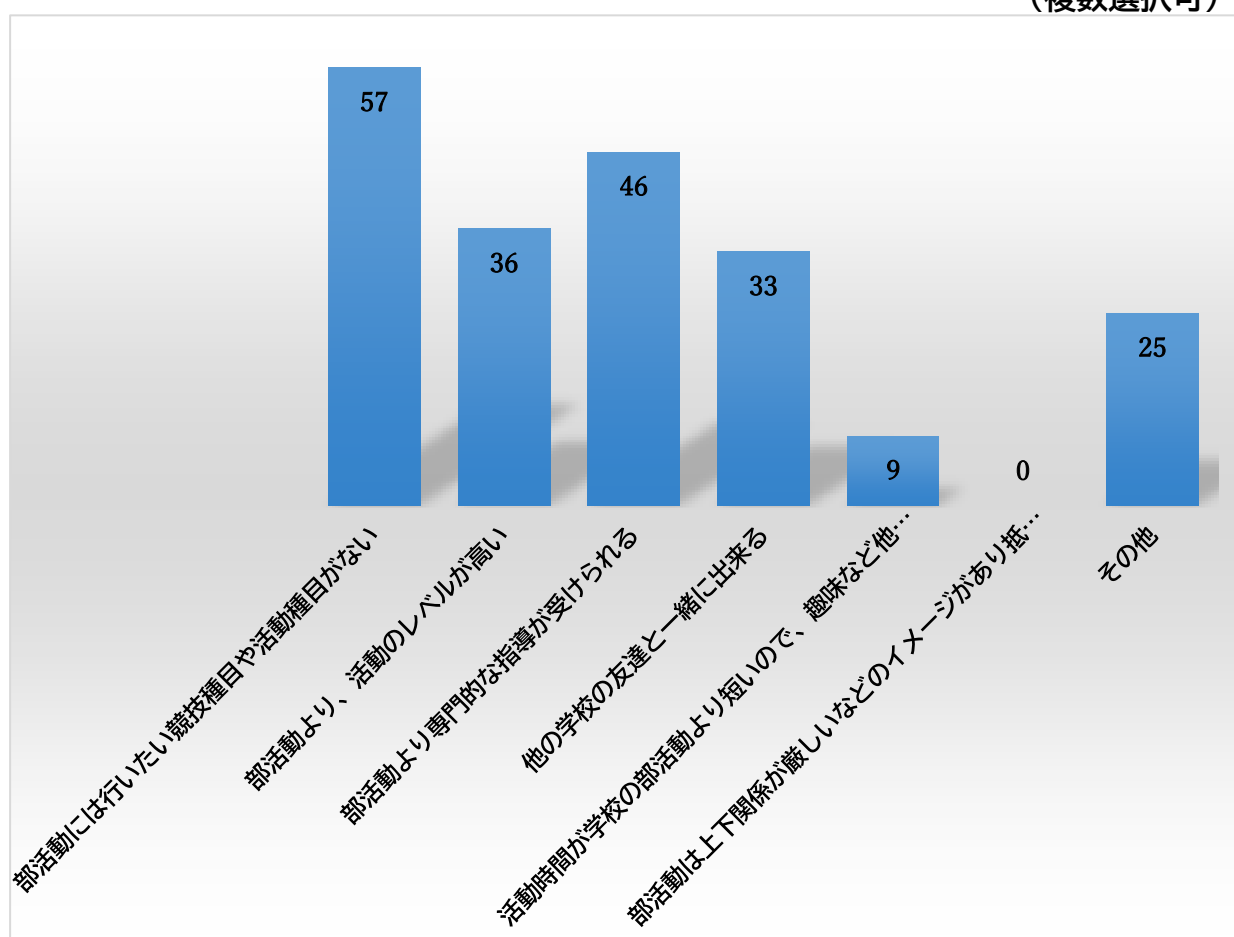
Q11. お子様が所属・活動している学校以外のクラブ活動等のクラブ名や団体名、スクール名や教室名などをお教えてください。

学校外のクラブ活動に参加させていると回答した保護者の件数 104件
参加している団体数 50 団体(水泳、サッカー、野球、ダンスなど)

【考察】

- ・多数の児童・生徒が学校外の地域クラブ活動に参加している。
- ・複数の団体に参加しているケースもみられる。

Q12. お子様が部活動ではなく学校以外のクラブ動を選んだ理由は何ですか。
(複数選択可)

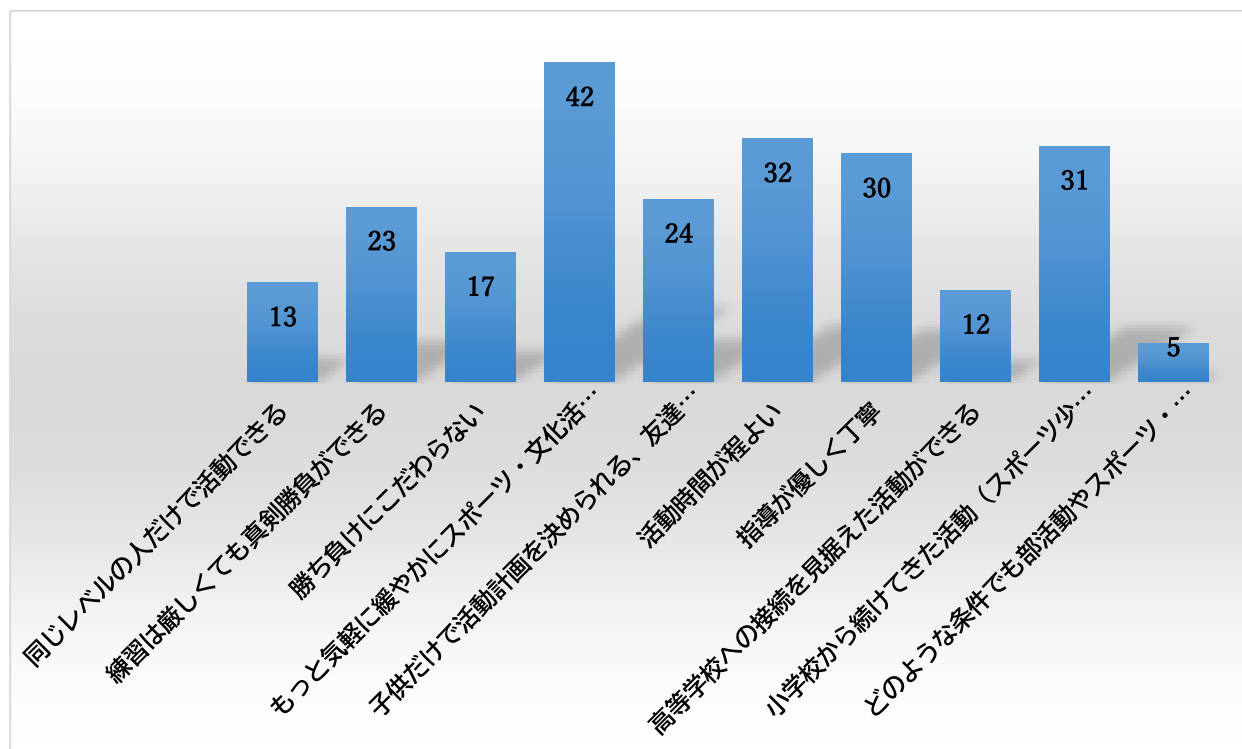


【考察】

「部活動には行いたい競技や活動種目がない」が27.7%であるが、専門的な指導により活動のレベルを高めたいことをあげている保護者が39.8%と多い。

Q13. お子様に参加させたい地域クラブ活動の条件はどのようなものですか。

(複数選択可)



【考察】

気軽に緩やかに、優しく丁寧な指導のもと活動させたいと願っている保護者が多い(45%)。

「小学校からの活動」も多い(13.5%)。小中学生の場合とは異なり、「同レベルの人だけ」「勝ち負けにこだわらない」を願う保護者は少ない。

◆部活動や地域の文化活動・スポーツ活動について、感じていることや希望すること
(自由回答)

- ・地域移行により保護者負担が増加する。
- ・柔軟性が必要、部活動にこだわることはない。
- ・部活動がクラブになるのではなく、地域のスポーツ環境の中に中学生期の子もたちがスポーツできる環境を整備するという考え方のもとに、今ある環境をベースにできることできそうなこと、新たに考えなければいけないことを整理して、共通理解を図る必要がある。大町市の目指すゴールイメージを共有してほしい。
- ・地域移行した場合、学校側は、子供たちの状況を、どう把握するのか。いじめや悩みは、どこに相談していくのか。
- ・地域移行で施設利用料等の負担が多くなる。
- ・移動方法、送迎の負担が増える。

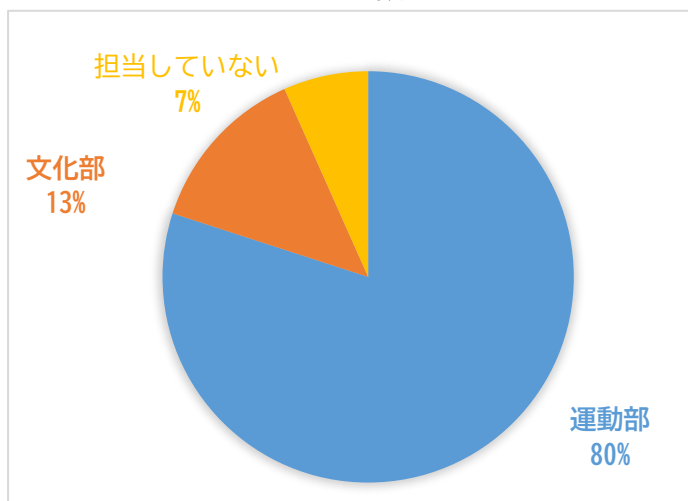
【全体考察】

- ・保護者としては、子どもの希望を叶えたいが、これ以上の負担増は厳しい。
- ・小学生、中学生のアンケートからも、学校外のクラブ活動も盛んであり、保護者の負担は大きい。
- ・これまでの部活動が地域移行後、負担増となることは強い抵抗がある。
- ・学校部活動の継続を望むが、指導者は専門的な指導者を望む傾向がある。

教職員アンケート結果

【回答者 15人 回答率 52.72%】

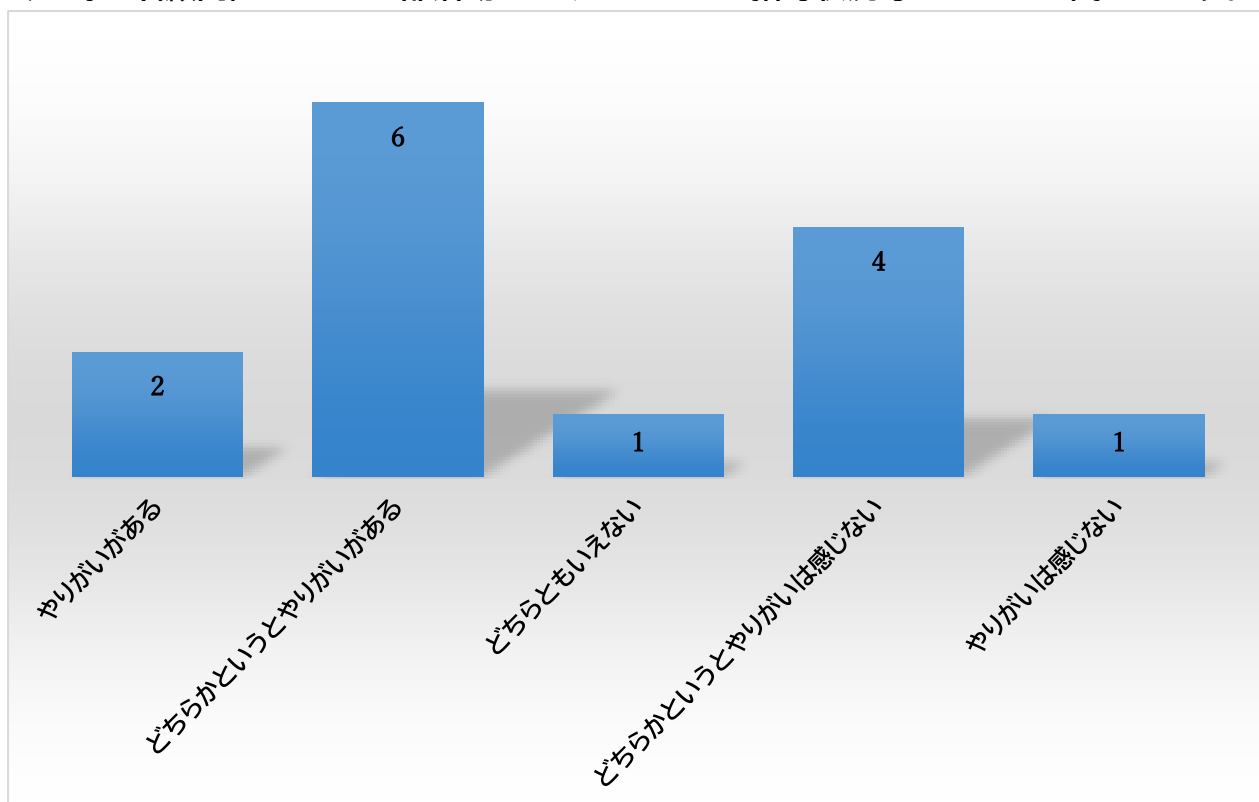
Q1. あなたが現在、担当(顧問)をしている部活動は何ですか。



【考察】

担当している教職員が93%であり、担当していない教職員が7%である。

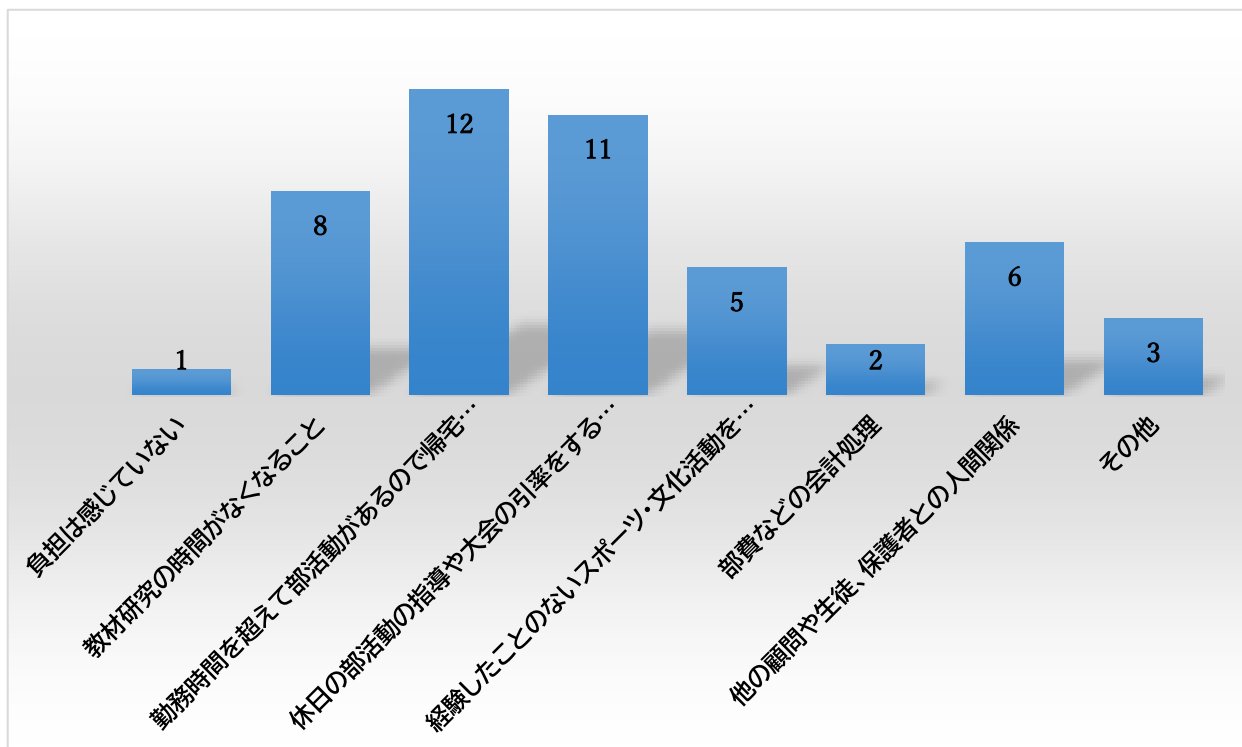
Q2. 担当(顧問)をしている部活動におけるあなたの指導状況等についてお聞きます。



【考察】

5割以上の教職員が、「やりがいがある」、「どちらかというやりがいがある」と回答している。やりがいを感じている教職員が57%と半数以上であるが、やりがいを感じていない教職員も36%いる。

Q3. あなたが、部活動の顧問をしている中で、どのようなことを負担に感じますか。
(複数回答可)

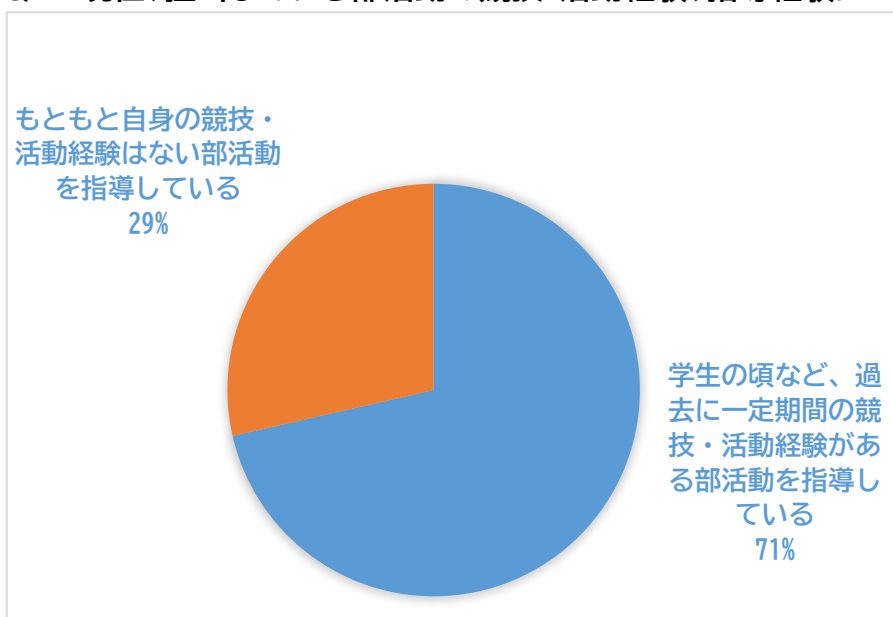


【考察】

負担を感じていない教職員が1名(2.1%)に対し、他の教職員は何らかの負担を感じている。特に以下の2点の項目に負担を感じている。

- ・「勤務時間を超えて部活動があるので帰宅時間が遅くなること」
- ・「休日の部活動の指導や大会の引率をすること」

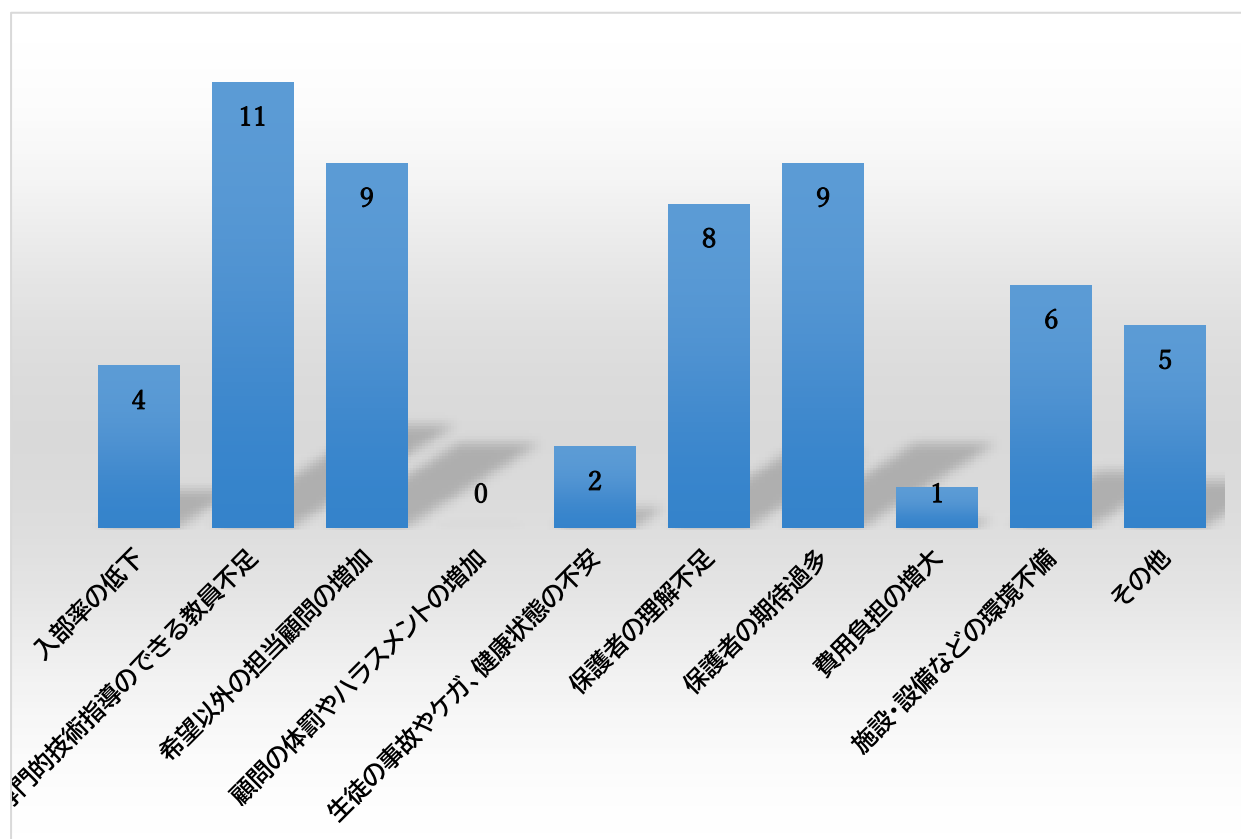
Q4. 現在、担当している部活動の競技・活動経験、指導経験についてお聞きします。



【考察】

競技経験のある部活動を指導している教職員が10名(71%)と多いが、経験のない部活動を指導している教職員も4名(29%)いる。

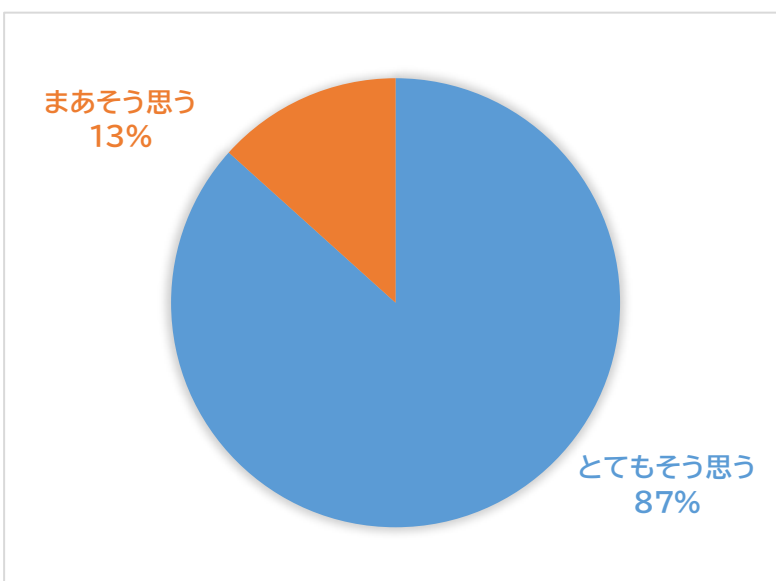
Q5. 現在の部活動の問題点と感ずることは何ですか(複数回答可)



【考察】

60%以上の教職員が「専門的技術指導のできる教員不足」、「希望以外の担当顧問の増加」、「保護者の期待過多」等を問題点として挙げている。次いで、「技術指導のできる教員不足」、「保護者の理解不足」など、問題を感じている教職員が多い。

Q6. 働き方改革を進める上で、部活動のあり方を変える必要についてお聞きします。



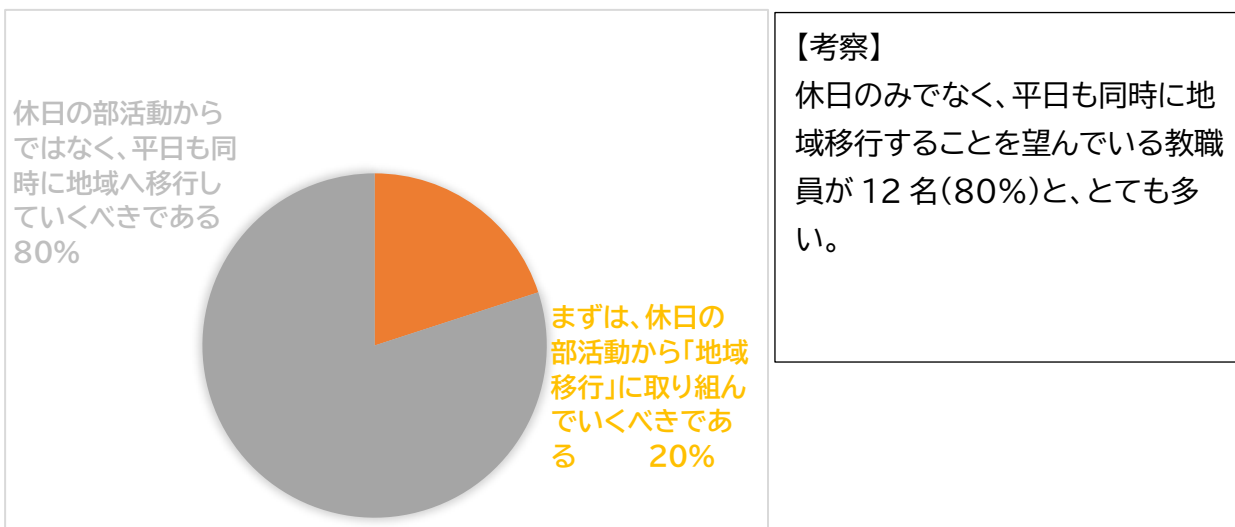
【考察】

働き方改革を進める上で、全ての教職員が部活動のあり方を変える必要があると考えている。

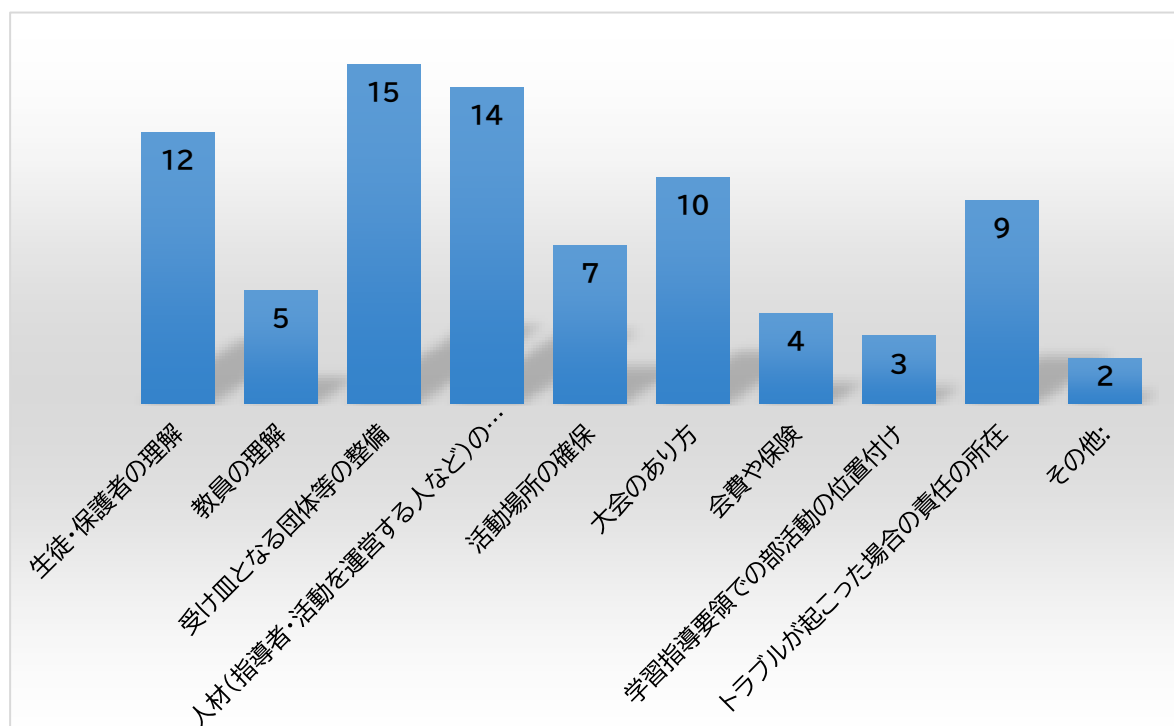
Q7. 上記 Q6 であなたがそう思う理由をお教えてください。

- ・教師は授業が主の業務であるが、部活動終了後、時間外等に教材研究を行わざるを得ないため、非常に負担が大きい。
- ・専門外の競技の指導はストレスが大きく、やりがいは感じない。
- ・生徒・保護者の希望を叶えるためには、専門知識、技能のある外部コーチによる指導が必要で、社会体育に移行することが望ましい。 ほか

Q8.「部活動の地域移行」について、あなたの意見をお聞きます。



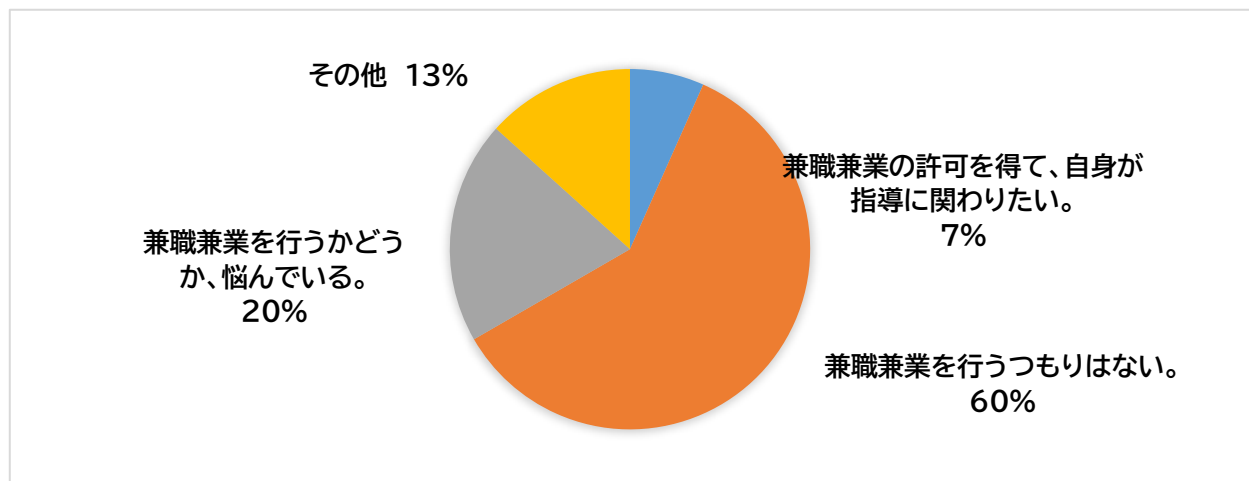
Q9.「地域移行」に向けて、解決すべき課題は何だと考えますか。(複数回答可)



【考察】※複数回答有

特に多いのが、「受け皿となる団体の整備」「人材の確保」(両方で3分の1を占める)である。続いて、「生徒・保護者の理解」「大会のあり方」「トラブルが起こった場合の責任の所在」である。地域移行に際しては、大きな課題を中心に解決していくことが大切であるが、他の課題への対応も必要となってくる。

Q10. 休日の部活動が地域移行後、指導への関わりについてお聞きます。



【考察】

「兼職兼業の許可を得て、自分が指導に関わりたい」という教職員は、1名であった。休日は自分の生活を大切にしたい、負担を感じることは回避したいと思うためか、6割の教職員が「兼職兼業を行うつもりはない」と回答している。

●今後の地域移行、部活動を取りまく環境や教員の働き方改革に関することへの意見
(自由回答)

- ・教員の就労形態の改善に向け、早急に地域移行を進めるべき
- ・中体連のあり方(学校出場)
- ・移行後の生徒の受け皿を心配 ほか

◆全体考察

- ・部活動指導にやりがいを感じつつも、過度な負担があるとする教員が多い。
- ・部活動指導に当たることで、主たる業務が疎かになることへの不安が大きい。
- ・現行制度の改善を望む回答が多い。